

発掘調査報告第12集

駒ヶ根東部土地改良区下間地区県営ほ場整備事業（昭和56年度分）

埋蔵文化財緊急発掘調査

よきとぎ遺跡

——緊急発掘調査報告書——

1982

南 信 土 地 改 良 事 務 所

駒 ヶ 根 市 教 育 委 員 会

序 文

今回ここに刊行の運びとなった報告書は、竜東地区の県営ほ場整備事業に伴い、昭和56年度に実施された埋蔵文化財緊急発掘調査の報告であります。

現在駒ヶ根市は3つの地区により構成され、天竜川をはさんで西に赤穂地区、東に竜東地区があり、その竜東地区は大別すると新宮川をはさんで北に東伊那地区、南に中沢地区があります。

大正末年より鳥居龍蔵博士により遺跡の分布調査がされ、当遺跡が存在します中沢地区もその研究の中に述べられてきました。

駒ヶ根市では、中沢地区・東伊那地区にあります数多くの遺跡を対象に、昭和56年度より竜東地区県営ほ場整備事業に先立ち、これらの埋蔵文化財の発掘調査を実施しなければならない現情であります。

今回発掘調査を実施しましたよきとき遺跡は、中沢地区のみならず駒ヶ根市内において、大変貴重であり、重要な遺跡であることが確認されました。それは、遺構については土壇のみでありましたが遺物におきまして、縄文時代早期末から前期にかけての土器片が数多く出て、駒ヶ根市内で発見された遺跡の中で古い方に属するということであります。本報告書の各項にみられます多くの遺構・遺物は、今後の研究上に果たす役割は大きなものと確信しております。長期間にわたって発掘調査をご指導下さった友野良一団長を初め、快く発掘作業に参加していただいた地元の方々、事業に深いご理解をいただいた東部土地改良区並びに南信土地改良事務所の方々、地主の方々等、多くの皆さまのご協力、ご厚意によりまして初期の目的を達成することができました。ここに関係者の皆さま方に心から感謝申し上げますとともに、この報告書が学界のお役に立つことを念願する次第であります。 駒ヶ根市教育長 木 下 衛

凡 例

1. 今回の調査は、昭和56年度に実施された駒ヶ根東部土地改良区下間地区県営ほ場整備事業に伴うものである。
2. 事業は、南信土地改良事務所の委託により、県営ほ場整備事業駒ヶ根下間地区埋蔵文化財調査会が実施したものと文化庁補助事業との両者のものである。
3. 当報告書は、昭和56年度中に業務を終了する義務があるため、調査によって明らかとなった遺構及び遺物をより多く図示することに重点をおき、文章記述はでき得る限り簡略し、資料の再検討は後日の機会にゆずることとした。
4. 当報告書の執筆は、小原晃一が担当した。
5. 遺構関係の図面は、小原と新井美智子が製図し、縮尺はその都度指示してある。
6. 遺物整理作業の中で、土器の復元を小松原義人が担当し、土器の実測を小原・白沢由美が、土器の拓影を新井美智子・宮下節子が、石器の実測・製図を新井美智子がそれぞれ分担した。
7. 当報告書の編集は、小原晃一が主としてあたった。
8. 当遺跡の遺物及び実測図類は、市立駒ヶ根博物館に保管してある。

目 次

序 文	
凡 例	
目 次	
挿図目次	
図版目次	

第 I 章 発掘調査の経緯	1
第 1 節 発掘調査に至るまでの経過.....	1
第 2 節 調査会の組織.....	1
第 3 節 発掘作業経過.....	2・5・7
第 II 章 遺跡の環境	7
第 1 節 位置及び地形.....	7・8
第 2 節 歴史的環境.....	8
第 III 章 発掘調査	9
第 1 節 調査概要.....	9
第 2 節 遺構と遺物.....	10
第 IV 章 ま と め	50

挿 図 目 次

第 1 図 よきとぎ遺跡位置図.....	3
第 2 図 よきとぎ遺跡地形図.....	4
第 3 図 よきとぎ遺跡周辺遺跡分布図.....	6
第 4 図 S(か-12)-N(す-12)・W(さ-7)-E(さ-16)層位断面図.....	9
第 5 図 よきとぎ遺跡遺構全体図及びグリット図.....	10
第 6 図 か-8~16G・か-8~す-8G内、暗褐色土層遺物分布図.....	33
第 7 図 第 I 群 1・2 類、第 II 群 1 類 A~C 種土器.....	36
第 8 図 か-11~16G・か-11~す-11G内、黒褐色土層遺物分布図.....	37
第 9 図 第 II 群 1 類 C~E 種、2 類 A・B 種土器.....	38
第 10 図 か-10~16G・か-10~す-10G内、黒褐色土層遺物分布図.....	39
第 11 図 第 II 群 3 類 A~E 種、第 III 群 1・2 類土器.....	40
第 12 図 土壇 1~3 号周辺遺物分布図及びピット群・焼土集中区実測図.....	41
第 13 群 第 IV・V 群土器.....	42

第14図	石器実測図	42
第15図	石器実測図	45
第16図	石器実測図	46
第17図	石器実測図	47
第18図	第1号住居跡・集石址実測図及び遺物分布図	48
第19図	第Ⅵ・Ⅶ群土器	49

図 版 目 次

図 版 1	よきとき遺跡調査状況	53
図 版 2	遺構出土状況	54
図 版 3	土壇1号～4号	55
図 版 4	遺物出土状態	56
図 版 5	出土土器	57
図 版 6	出土土器	58

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 発掘調査に至るまでの経過

昭和51年度より県営ほ場整備事業に伴う発掘調査の経費のうち、農家負担分については、文化財保護担当部局において負担するようにとの指示があったため、よきとぎ遺跡の一部をよきとぎ B 遺跡とし文化庁補助事業として委託事業を実施することとし、昭和56年5月6日に予算165万円の補助事業交付申請書を提出した。

当該事業は県営ほ場整備事業と関連するため、南信土地改良事務所・東部土地改良区と連絡をとりながら、7月1日から着工することとした。団長には友野良一氏をお願いし、調査団を編成して県文化課へ発掘調査の指示を受けた。

今回の発掘調査は一遺跡を補助事業と南信土地改良事務所からの委託調査として進めて行く方法をとった。

第 2 節 調査会の組織

●よきとぎ遺跡発掘調査会

会 長	木 下 衛	(駒ヶ根市教育長)
理 事	小 池 金 義	(" 教育次長)
"	宮 脇 昌 三	(" 文化財審議委員)
"	松 村 義 也	(" ")
"	竹 村 進	(" ")
"	増 沢 広 人	(市立駒ヶ根博物館長)
監 事	中 原 正 純	(市文化財保存会長)
"	北 原 名田造	(駒ヶ根郷土研究会長)
幹 事	北 沢 吉 三	(市教育委員会社会教育係長)
"	原 寛 恒	(" 社会教育係)
"	福 沢 房 美	(市立駒ヶ根博物館)
"	小 原 晃 一	(")

●調査団

団 長	友 野 良 一	(日本考古学協会会員)	< 発掘担当者 >
調査員	小 原 晃 一	(長野県考古学会会員・市博物館)	< 発掘担当者 >

調査員	小町谷 元	
補助員	小河 千折	
指導者	関 孝一 (県文化課指導主事)	
	郷道 哲章 (")	
	白田 武正 (")	
	樋口 昇一 (県文化課専門主事)	
	岩佐 今朝人 (")	
	笹沢 浩 (")	
	小林 秀夫 (")	
	青沼 博之 (")	
	小柳 義男 (")	
	百瀬 新治 (")	
	土屋 積 (")	
	百瀬 長秀 (")	
	林 茂樹 (日本考古学協会会員)	(順不同、敬称略)

第3節 発掘作業経過

6月30日(火) 昭和55年秋に試掘調査を実施した地区の中で、遺物包含層が確認された個所を中心として、北西隅を基点とし、主グイで10m×10mのグリットを設定する。引き続き、器材運搬を行う。

7月1日(水) 前日設定したグリットの中で、北西隅に天幕を設営する。グリットは南北軸南からあ・か・さ・た……とし、東西軸西から1・6・11・16……とし、中に2m×2mの小グリットを設け、うー1グリットからなー1グリットまで一つおきに掘り下げる。出土遺物はなく南側の基盤はローム層で良好であるが、北側は礫・砂の混土層である。

7月2日(木)

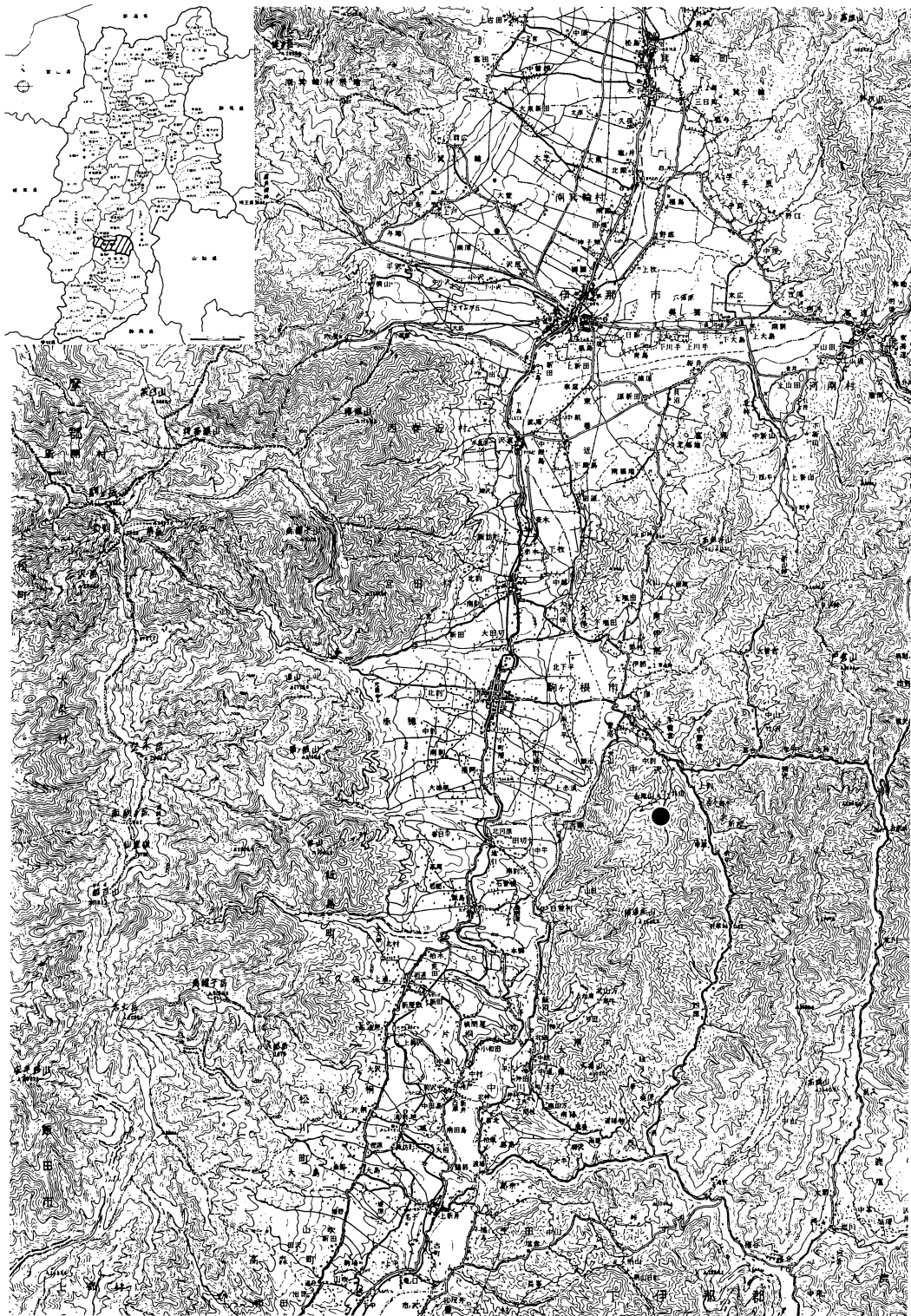
） 長雨により現場作業休み。

7月5日(日)

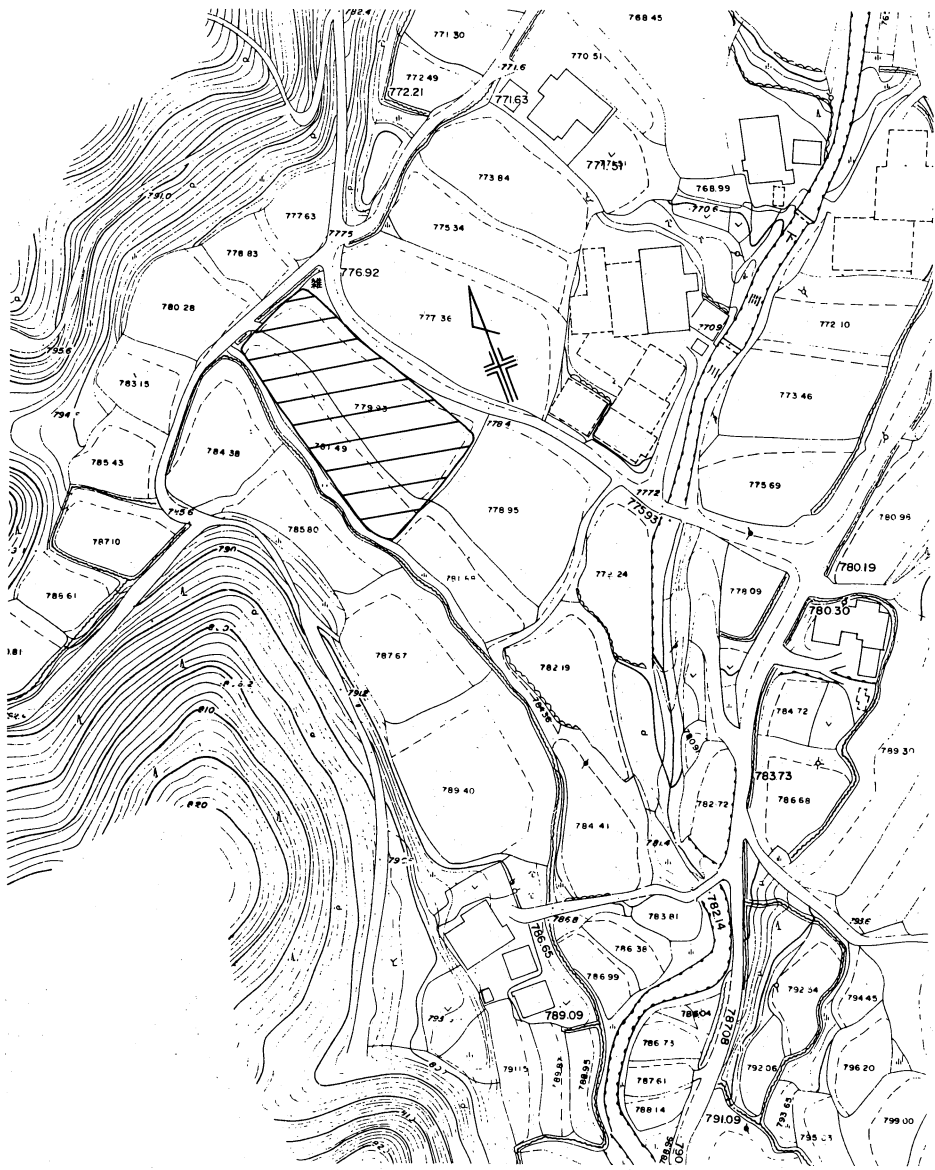
7月6日(月) いー3～5グリットからこー3～5グリットにかけて排土作業。いー3～5と、かー3～5、いー5～けー5グリットにセクションを残す。うー5～かー5グリットに落ち込みを発見する。出土遺物は陶器片が出土。

7月7日(火) 下の段の田の排土作業にかかり、つー8・10～にー8・10グリットの排土作業を行う。表土からの出土遺物はない。

7月8日(水) 引き続き北側のねー8・10～ほー8・10グリットの排土作業を行う。各グリットともに基盤は砂・礫層である。ほー10グリット下層より縄文時代後期の土器片が出土。



第1図 よきとき遺跡位置図 (S = $\frac{1}{200,000}$)



第2図 よきとぎ遺跡地形図 (S = $\frac{1}{2,000}$)

調査区周辺の地形測量を縮尺200分の1で行う。

7月9日(木) しー10～14グリットからつー10・12グリットにかけて排土作業を行う。さー10～14、せー10～14、たー10～14に東西方向に、また、さー12～つー12、さー14～つー14に南北方向にセクションを設定する。前日の残りの地形測量を行う。

7月10日(金) か・きー7・8グリット、さ～すー7・12グリットの排土作業を行う。出土遺物は、さ～すー7・8グリットを中心に縄文時代中期、奈良・平安時代の土器片が出土し、縄文時代中期の炉址と思われる石組が表出している。

7月11日(土) く～こー7～12グリットの排土作業を行う。縄文中期や奈良・平安の遺物に混って、縄文早期末から前期にかけての土器片が出土する。

7月13日(月) か・きー10・11グリット、く～こー9～11グリットの排土作業を行う。

7月14日(火) か・きー10～13グリット、く～こー9～13グリットの排土作業を行う。く・けー9グリットに木炭を多く含み黒色を呈する層が検出される。上の段の境で、い～かー6・7グリットにあたる土手部分をブルドーザーで排土作業を行う。

7月15日(水) か～こー9～13グリットの排土作業をベルト部分を残してほぼ終了。下層より縄文時代早期末～前期にかけての土器片が総体的に出土する。か～こー14・15グリット、く～こー17・18グリットの排土作業にかかる。前日に引き続き、い～こー6・7グリットの土手部分をブルドーザーにより排土作業を行う。遺物取上げと写真撮影を行う。

7月16日(木) い～しー4グリット、くー10～16グリットに設定したベルトの写真撮影を行い、縮尺20分の1で実測し、ベルトのとりはずしを行う。く～けー10～16グリットの遺物包含層の掘り下げを行い、遺物の取り上げ(平板へ20分の1でドットし、レベル実測)を行う。上の段のい～こー4・5グリットで確認された落ち込みを第1号住居跡とし、焼土・木炭集中個所の清掃と写真撮影を行う。

7月17日(金) 第1号住居跡北側の集石址の掘り下げを行う。清掃後、写真撮影を行う。

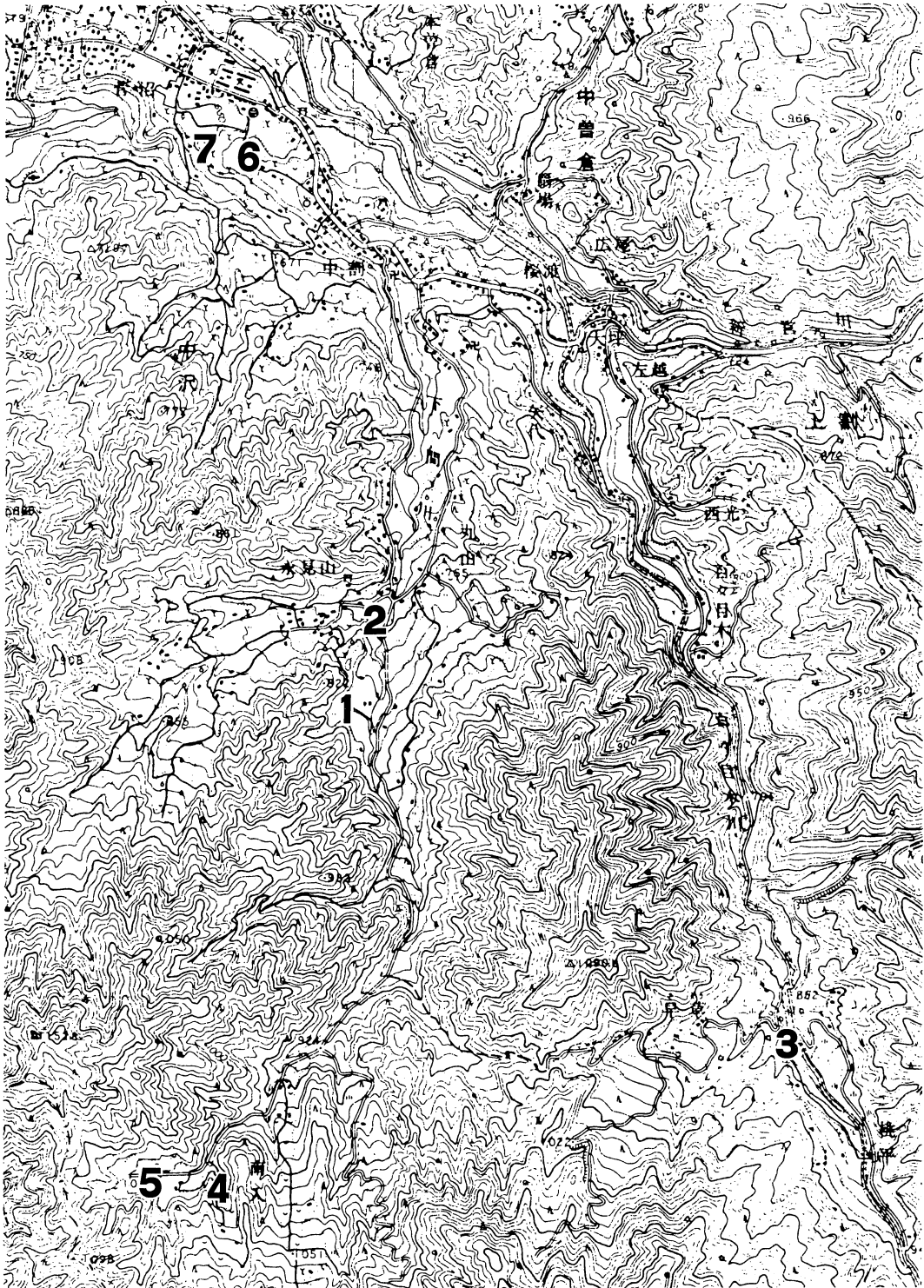
7月20日(月) け～しー10～13グリットの掘り下げを行う。縄文時代中期、土師・須恵器が多く出土する。

7月21日(火) さ・しー12・13グリットの掘り下げを行う。縄文早期末～前期・中期の遺物と土師・須恵器が黒色土の中から同一レベルで出土しているが、遺構は不明確である。

7月22日(水) 第1号住居跡を掘り下げる。さ・しー10・11グリットを掘り下げる。

7月23日(木) こ～しー9・10グリットとけ～すー9グリット(焼土・木炭集中区)の掘り下げを行い、焼土・木炭集中区の清掃及び写真撮影を行う。出土遺物のドット・レベル実測を行う。

7月24日(金) 第1号住居跡のベルトのセクション実測、かー1～4、けー1～4セクションの実測と写真撮影を行う。また、し～すー10・11グリットの掘り下げを行う。しー10グリットより鉄鏝が出土する。



1. よきとぎ 2. 古宮 3. 早草 4. 大平 5. きぐたし 6. 高見原 7. 高見原横山

第3図 よきとぎ遺跡周辺遺跡分布図 (S = $\frac{1}{25,000}$)

7月25日(土) 第1号住居跡柱穴の掘り下げを行う。し・す-10・11、け・こ-14・15グリットの掘り下げを行う。し・す-12・13グリットの礫群の平板測量と写真撮影を行う。

7月26日(日) か・き-13・14、し・す-12・13グリットの礫群レベル実測と平板測量を行い、け・こ-15・16グリットの掘り下げを行う。出土遺物は徐々に縄文時代早期末～前期のものが多くなったが、若干須恵器が混じる。全てのベルトを取りはずす。か～こ-13～15グリット内よりピット群と土塚が4基確認される。

7月27日(月) ピット群と土塚の平板測量と遺構より出土した遺物の取り上げを行う。さらに、い～す-1～16グリット内の遺物の取り上げと写真撮影を行う。

7月28日(火) 調査区全域の遺構の清掃と写真撮影を行う。

7月29日(水) 残った遺構-ピット群周辺一の清掃と写真撮影を行い、発掘器材の整理と撤収の準備を行い、本日を持って発掘作業を終了する。

〔発掘調査参加者名簿〕

湯沢勝四郎、寺平政金、湯沢はる、下島花子、下島安江、林利子、林喜美、北原和枝、山本なをゑ、北原元枝、宮沢かつゑ、林すゑ子、青山ふしみ、山下光人

(協力者) 山口克己、林勝司、湯沢武夫

三週間余にわたって、真夏の暑さの中で、発掘調査に参加していただいた方々に、心から感謝の意を申し上げる次第です。(小原晃一)

第 II 章 遺跡の環境

第 1 節 位置及び地形 (第 1・第 2 図)

当遺跡は、駒ヶ根市中沢永見山1491-1、1492-1に所在する。国鉄飯田線駒ヶ根駅より南東6kmに仕置し、標高は780m前後である。

駒ヶ根市中沢地区においては、中割部落から永見山部落への玄関口である高見城址より、南へ約2km入った所にあり、陣馬形山へ向う道すじの右手に位置する。

伊那谷は、長野県の南部にあり、西に木曾山脈があり、天竜川をはさんで東に赤石山脈、中央構造線をはさんで戸倉山、高鳥谷山を初めとする前山の伊那山脈が並行して走っている。この伊那山脈の一角をなす陣馬形山の北西山麓に当遺跡はある。この陣馬形山に端を発する下間川の左岸段丘上に当遺跡は位置し、東に下間川と丸山地籍の山麓が展望でき、西にはやや急峻な山麓をひかえている。下間川どの比高差は、10mを測る。

遺跡地下方で下間川へと続く地層は、当遺跡とは様相が一変して、砂・礫層が堆積し、同河川の氾濫原となっていたことが、試掘調査で明らかになった。

下間川の造り出した谷は、遺跡南方500mの地点から深いV字谷を形成し、高見城址まで続き、北に位置して東から西へ向って天竜川に流れ出る新宮川の造り出した堆積台地にあたって、それと並行して天竜川へと引き続く。その途中の左岸に位置する当遺跡は、その下間川の大河川と湧水がやや大きくなった小河川の間にはさまれ、南北に細長いテラス状の山麓先端部にあり、あまり大規模な遺跡を形成しえなかったものと考えられる。

したがって、古地形を推定すると、遺跡地東端すぐ下位に下間川の川辺があったと考えられる。当遺跡の層位について簡単にふれてみたい。現況では、2枚の水田の両方にまたがって遺跡があり、開田時の痕跡をとどめており、ノーマルな状態は示していない。耕作土(表土—暗褐色土)を第Ⅰ層として、以下に示すとおりである。

第Ⅰ層——耕作土(表土—暗褐色土)

第Ⅱ層——埋土(地場—暗黄褐色土)

第Ⅲ層——茶褐色土

第Ⅳ層——暗茶褐色土(ローム粒・木炭粒含む—遺物包含層)

第Ⅴ層——黒褐色土(木炭粒・焼土含む—遺物包含層)

第Ⅵ層——ロームふらん土

第Ⅶ層——ローム層

このような層位関係がみられるが、開田時の状況により第Ⅱ・Ⅲ層が複雑さを呈する部分がみられ、前述の様に砂・礫層が基盤となっている部分が遺跡地の北半分を占めることから下間川の氾濫原であったことを示している。

第2節 歴史的環境 (第3図参照)

よきとき遺跡は、縄文時代の遺跡としては知られていたものの、具体的な調査や時期の判明は今までに行われてはいなくて、今回の調査に先行して行われた試掘調査により、縄文時代早期末から前期、中期の遺物が発見され、初めてその概要がつかめたと言えます。

第3図を参照していただきますと理解できますように当遺跡周辺は山間地であり、標高が650mから1,000mに及んでおり、全体的に未調査の部分が多くあります。2は古宮遺跡で下間川の左岸段丘上にあり、遺構は確認されず縄文早期末～前期・中期・後期、平安時代末、鎌倉～南北朝・室町にかけての遺物が出土している。3は早草遺跡、4は大平遺跡とともに縄文時代の遺跡とされています。5はきぐたし遺跡で、4とともに標高1,050m前後で非常に高地の遺跡であり、注目されるのは縄文時代とならんで平安時代の遺物が確認されていることです。6は、下間川と新宮川にはさまれた東西に長い台地上に構築された高見原遺跡で縄文時代中期の大集落であり、また歴史時代の遺跡でもあります。7は、高見原横山地点遺跡で昭和29年開田工事の際に押型土器や斜縄文を施した土器など縄文時代早期の遺跡として知られています。

このように周辺の遺跡を総合的にみまると、縄文時代早期から歴史時代にかけての中で、よきとき—古宮—高見原横山、きぐたし—よきとき—高見原という相間関係がはっきりと見られる。

第 III 章 発掘調査

第 1 節 調査概要

前章で述べたとおり、昭和55年秋の試掘調査により、縄文時代早期末から前期・中期の遺物が確認されていたので、駒ヶ根市内で割合古い方の遺跡の資料になるという期待のもとに試掘調査で遺物包含層となった地点を中心として調査を行った。

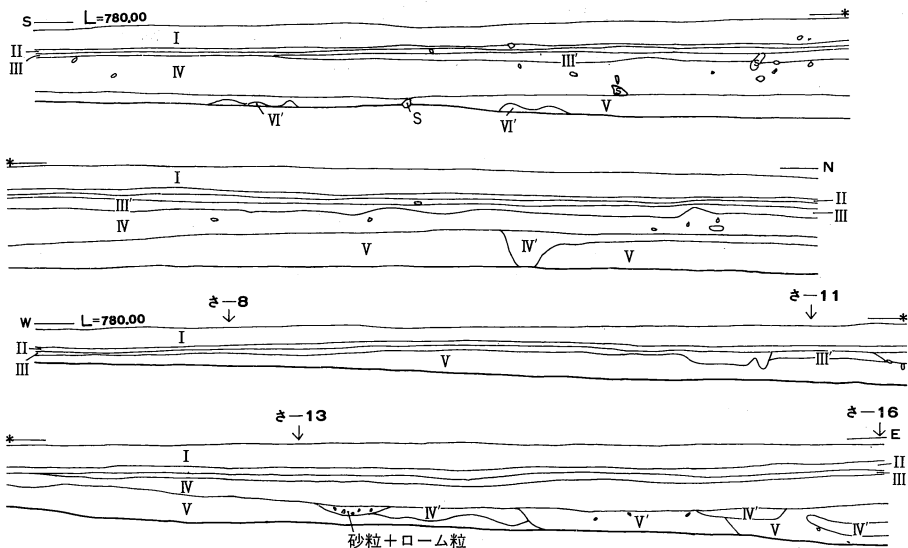
調査方法は、グリット方式により、遺構・遺物包含層の確認を持って拡張するという方法をとった。グリットは上の段の水田の北西隅を基点として主グイを10m×10mごとに東西軸に1・6・11・16〜と、南北軸にあ・か・さ・た〜と大別をし、さらにその中へ、2m×2mの小グリットを設けた。

出土遺物については、第Ⅲ層～Ⅳ層上位まではグリットごとにまとめて取り上げ、Ⅳ層上位からⅤ層下位までは、原則として全点図面上へドットをしレベルを実測した。第1号住居址については、Ⅳ層以下を図面にドットしレベルを測った。

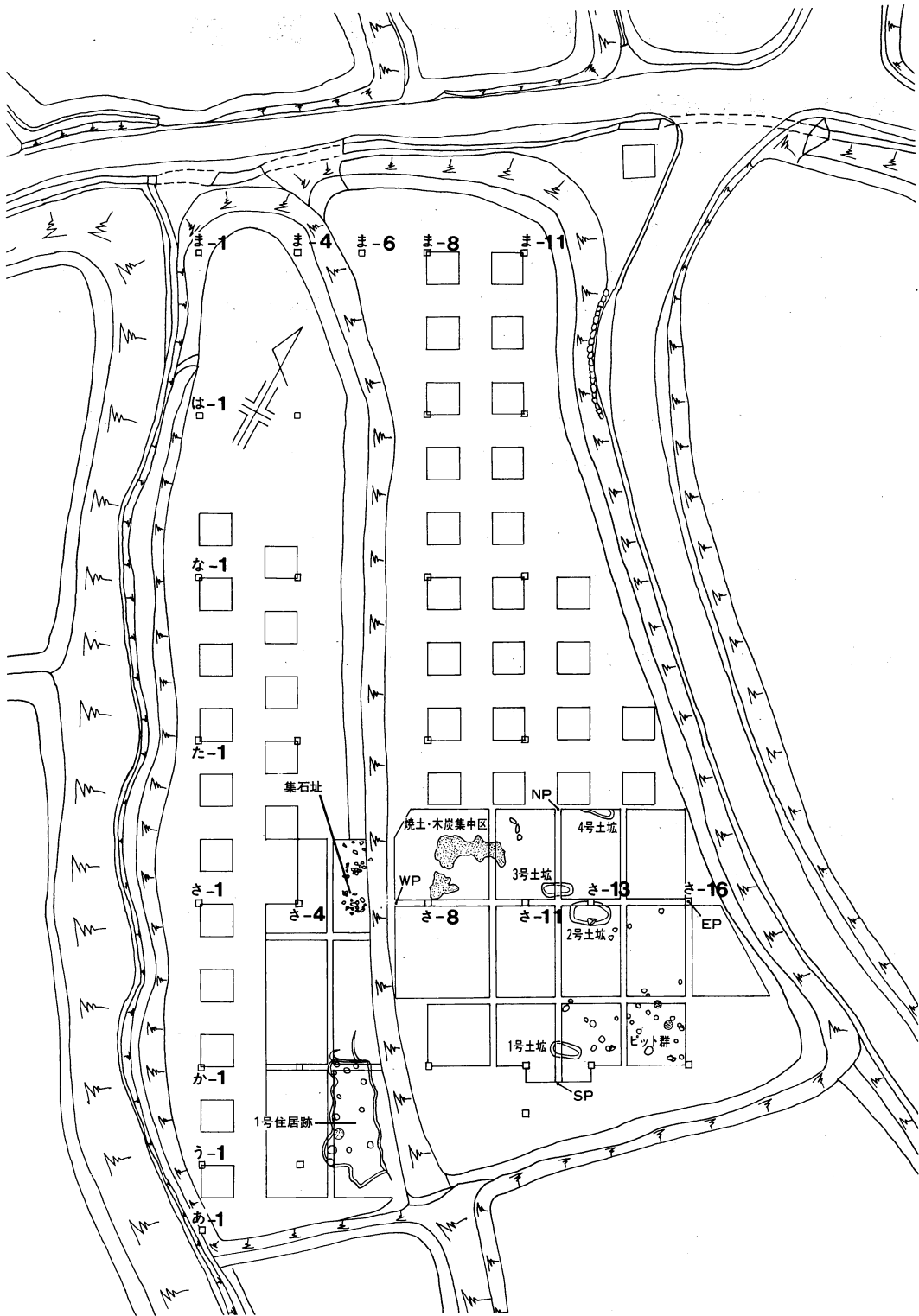
この調査により平安時代末以降の住居跡1軒と縄文時代早期末から前期にかけての土坑4基・ピット群、時代不明の集石址1ヵ所が確認された。

第 2 節 遺構と遺物 (第 5～19図、図版 1～6)

当遺跡において検出された遺構は、縄文時代前期初頭に位置されうる土坑4基、縄文時代と考えられるピット群1ヵ所、平安時代後半の竪穴住居跡1軒、時代不明の集石址、焼土・木炭集中区、時代の不明確な焼土集中箇所であり、山麓先端部の川岸段丘上に築かれている。竪穴住居跡と土坑・ピット群との比高差は1.5m前後を測る。



第 4 図 W(さ-7) - E(さ-16)・S(か-12) - N(す-12)層位断面図(S = $\frac{1}{80}$)



第5図 よきとき遺跡遺構全体図及びグリット図(S=1/400)

遺物については、縄文時代早期末の条痕文土器片をはじめ、縄文前期初頭～後半、同中期後半、後期前半、平安時代半ば～後半、鎌倉時代以降～南北朝にかけてと様々な遺物が出土している。遺構に伴う遺物は全体的に少なく、主にⅢ層下層（茶褐色土）～Ⅳ層（暗褐色土）～Ⅴ層（黒褐色土）にかけて出土し、挿図に載せてある遺物はⅣ層～Ⅴ層出土のものである。

遺物の分類は以下の様に行ったが、若手の問題点を含むことはまぬがれない。

- 第Ⅰ群 1類 A種 繊維は含まずやや厚手（器壁厚8mm前後）で、表裏に条痕文を施すもの。（茅山式比定）
- B種 繊維は含まず中厚手（器壁厚は5mm～8mm位）で、表裏に横・縦・斜めの条痕文的な文様（調整）や擦痕がみられるもの。
- C種 繊維を多く含むが焼成が良くやや厚手で、表裏に条痕文的な文様がみられるもの。
- 2類 A種 粘土紐を波状に貼り付け、その上に条線を斜めに施すもの。繊維は含まず、長石・石英の細粒を多く含み、裏面には指痕が見られる。
- B種 A種に近似し、粘土紐を口縁に並行して貼り付けたり、波状に貼り付けを行い、その上に櫛歯状施文具で横及び斜めに刺突を施すもので、口唇部にも見られる。胎土及び調整は、A種と似る。
- C種 繊維は含まず、薄手（器壁厚は4mm～5mm）で、長石・石英・雲母の細粒を多く含み、櫛歯状施文具で条線文を施すもの。
- 第Ⅱ群 1類 A種 繊維を多く含み、横走る隆帯を貼り付け単節・無節の斜縄文を施すもの。器壁厚は8mm～12mm位を測る。（花積下層式比定）
- B種 繊維は含まず、薄手（器壁厚は4mm～5mm）で、縦の懸垂する隆帯を貼り付けたり、指などで整形を行うもの。胎土は非常に細かく、長石粒が多く、裏面にやや指痕が見られる。（中越Ⅰ式比定）
- C種 B種に近似し、薄手のものから中厚手のものまであり、表裏ともに斜めの擦痕が見られ、指痕が顕著である。繊維は含まない。口唇部にへら状施文具で刻み目が施されている。
- D種 C種に似るが、胎土に荒い長石・石英が多く含まれ、表裏ともに擦痕やへらでなでたと思われる荒い調整を施すもの。指痕は少なく、表面の調整は良いものもあるが裏面は荒い。繊維は含まない。
- E種 繊維を多く含み、器壁厚は5mm～8mmと中厚手で、表裏に擦痕やなでた痕跡が明らかに残るもの。第Ⅰ群1類C種に似るが焼成が悪い。
- 2類 A種 繊維は含まず、長石の細粒が多く含まれ、器壁厚は8mm前後で山形口縁をなす。施文は、口縁に並行して、櫛歯状施文具で2列の引き止めを施し、胴部の単節斜縄文との境に、同施文具で刺突を行っている。

- 器形は深鉢形を呈す。焼成良好。色調は淡黄灰色。(神ノ木式比定)
- 2類 B種 繊維を含み、焼成があまり良くなく、器壁厚は6mm～8mm前後でやや凹凸があるものの平口縁をなす。施文は、口縁部に沿って半截竹管状施文具で2列の刺突を周らし、頸部にはV字状の刺突を施す。頸部と胴部の境に3条もしくは4条の沈線をひき、胴下半部には撚りのしっかりしたR一単節斜縄文と撚りのあまく繊維の荒い原体L一単節斜縄文を施している。器形は深鉢形を呈す。色調は赤褐色。表面に若干、ススが付着している。(口縁部は東海の清水ノ上II式比定されるが、全体的には当地域の土器となり得ているのではないか。)
- 第II群 3類 A種 繊維は含まず、器壁厚は8mm前後を測りやや厚手で、単節斜縄文を羽状又は斜めに施す。口唇部にも縄文や刻み目をつけている。焼成良好。
- B種 繊維を含み、器壁厚は6mm～8mmを測り、口唇部から胴下半部にかけて無節斜縄文や撚糸文を施す。色調は淡黄褐色を呈し焼成は良好である。底部には、網代や撚糸が付けられている。
- C種 繊維は含まず、原体の太い斜縄文が交差するように粗雑に施されている。長石粒を多く含み、焼成は良好である。
- D種 繊維は含まず、長石・雲母の細粒を多く含み、口唇部から「格子状斜縄文」を施す。焼成な良好。
- E種 繊維を多量に含み、異状斜縄文を施すもの。
- 第III群 1類 A種 繊維を含まず、薄手(器壁厚は4mm)で、撚りの弱い斜縄文を施し、その上にへら状施文具で菱形を連続してつけているもの。胴部は割と張り出す。
- B種 繊維を含まず、薄手(器壁厚は5mm)で、長石の細粒と雲母を多く含み、単節斜縄文を施すもの。
- 2類 A種 繊維を含まず、器壁厚は6mm～8mmと中厚手で、長石・石英粒を多く含み、施文は、単節斜縄文を施すもの。原体の太さは様々である。
- B種 当遺跡から出土した土器の中で、唯一復元が可能なものである。器形は深鉢形を呈し、調整は口縁部周辺は横・斜めのへら状施文具による削りで、胴下半部は条痕状のナデが見られる。胎土は荒い長石・石英を多く含み、焼成はやや悪い。口径16.4cm、底径8.4cm、最大胴径17.6cm、高さ30.6cm、器壁厚は8mm～12mmを測る。出土層位は砂質ローム直上で、黒褐色土(V層)下層で、当遺跡では、土坑内の次に低位の層より出土した。これらより、本土器を古い時代に位置づけたが、非常に疑問が残る。尚、底部には木葉痕が付いている。

出土遺物一覽表

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
1	第19図	陶器	長頸瓶口縁部	12C以降	口縁19.4cm。器壁厚1cm。褐色釉。胎土に石英を多く含む。灰白色を呈す。ナデ整形。	
2		"	瓶・胴部	"	器壁厚9mm。ナデ整形。無釉。にごった白色を呈す。長石・石英を含む。	
3		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。細かい長石と荒い石英含む。暗褐色。	II-1-B
4		石器	円形礫器破片		硬砂岩。1/2残。	
5		土器	深鉢・胴部	縄文早期末	器壁厚は4mm。胎土極めて細かい。淡灰褐色。	I-2-B
6	第9図	"	"	" 前期	無文。裏面、指痕と擦痕文。石英多し。器壁厚は6mm。淡褐色。	II-1-C
7						
8	第7図	土器	深鉢・口縁部	縄文前期	垂下隆帯貼付。器壁厚は4mm。細かい長石と荒い石英含む。淡茶褐色。	II-1-B
9		"	胴部	"	無文。器壁厚は5mm。細かい長石含む。淡褐色。	II-1-C
10	第7図	"	"	縄文早期末	器壁厚は6mm。無繊維。口唇部刺突あり。長石多し。灰褐色。	I-2-B
11	第9図	"	胴部	縄文前期	No.17と同一個体。	II-1-E
12	"	"	"	"	"	"
13	第11図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	無節斜縄文。裏面擦痕。長石粒多し。淡褐色。	II-3-B
14		"	"	"	無文。器壁厚は6mm。細かい長石と荒い石英含む。淡茶褐色。	II-1-B
15		礫	片麻岩			
16		石器	丸石・硬砂岩			
17	第9図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	表裏とも擦痕。器壁厚は8mm。繊維多量。石英多し。茶褐色。	II-1-E
18	第15図	石器	すり石		緑泥片岩。短冊形。完形。	
19		"	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
20		"	剥片・石英			
21		"	硬砂岩		使用痕なし。	
22	第17図	"	敲打器・硬砂岩		楕円形。完形。	
23		"	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
24		"	"	"	"	
25		土器	深鉢・底部	縄文前期	底径6cm。上げ底。長石・石英多し。淡赤褐色。	(II-2-B)
26	第19図	須恵器	杯・口縁部	10~11C	口径12cm。ナデ整形。長石・石英粒を含む。灰褐色を呈す。	
27		土師器	甕・胴部	11~12C	ナデ整形。	
28		石器	すり石・砂岩		楕形。完形。	
29		土師器	杯・口縁部	11~12C	内黒。ナデ整形。石英・雲母を含む。淡褐色。	
30	第11図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。器壁厚は6mm。長石多し。淡褐色。	III-2-A
31		"	胴部	"	無文。器壁厚は5mm。長石多し。淡褐色。	II-1-D
32		石器	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
33	第16図	"	すり石・花崗岩		凹状の痕跡あり。完形。	
34	第7図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	単節斜縄文。繊維多し。淡褐色。	II-1-A
35		石器	丸石破片		硬砂岩。	
36		"	すり石			
37		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。繊維若干。石英多し。淡褐色。	II-1-E
38		土師器	坏・口縁部	11~12C	内黒。口唇部やや外反。	
39	第7図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。No.783と同一個体。	II-1-A
40		石器	凹石・花崗岩		凹部1ヶ所。側面磨ってある。	
41		土師器	甕・胴部	11~12C		
42	第16図	石器	凹石・片麻岩		凹部1ヶ所。	
43	第7図	土器	深鉢・胴部	縄文早期末	表面浅い条痕文。器壁厚は5mm。石英多し。暗褐色。	I-1-B
44	第11図	"	"	"	斜縄文。長石多し。器壁厚は6mm。淡茶褐色。	III-2-A
45	"	"	胴部	縄文前期	No.30と同一個体。	III-2-A
46	第7図	"	胴部	" 早期末	表裏とも擦痕文。器壁厚は6mm。石英・長石多し。淡褐色。	I-1-C
47	第15図	石器	丸石破片		硬砂岩。	
48		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。裏面指痕。長石・石英多し。暗褐色。	II-1-C
49	第17図	石器	すり石・花崗岩		ほぼ全面を磨ってある。	
50		"	丸石・硬砂岩			
51	第9図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。No.881と同一個体。	II-2-B
52	"	"	"	"	"	"
53	"	"	"	"	"	"
54	第9図	"	"	"	"	"
55		石器	すり石・片麻岩			

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
56		礫	砂岩			
57	第19図	陶器	杯・胴部	12C以降	灰青色を呈す。内面に灰釉が付着している。石英を含む。	
58		土師器	甕・胴部	11～12C	長石多し。ナデ整形。	
59		石器	すり石・花崗岩		焼石。	
60		礫	花崗岩			
61		石器	凹石・片麻石		焼石。凹部表裏2ヶ所。	
62		"	"		" 凹部1ヶ所。	
63		"	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
64		礫	片麻岩			
65		石器	丸石・硬砂岩			
66		"	"			
67		"	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
68	第13図	土器	深鉢・口縁部	縄文後期	沈線を口縁部に沿って施す。長石多し。淡褐色。	
69		土器	深鉢・胴部	縄文前期	刺突文。No.881と同一個体。	II-2-B
70	第13図	"	" 胴部	縄文中期末	単節の斜縄文の上に沈線で懸垂文・U字文を施す石英多く含む。外面スス。内面オコゲ付着。淡茶褐色。	
71		"	"	縄文前期	No.1017と同一個体。	II-3-C
72		"	胴部	縄文中期末	へら削りの上に沈線を施す。長石多し。灰褐色。	
73		"	"	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。長石・石英含む。暗褐色。	II-1-B
74		"	胴部	縄文中期末	No.70と同一個体。	
75	第13図	"	"	"	縦の隆帯文と単節斜縄を施す。長石多し。淡黄褐色。	
76		石器	礫器・硬砂岩		両端を削り、敲打してある。	
77		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	No.70と同一個体。	
78		鉄製品				
79		石器	剥片・硬砂岩		打製石斧の未製品か。	
80		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	No.70と同一個体。	
81						
82	第13図	土器	深鉢・胴部	縄文中期末	No.70と同一個体。	
83		"	"	"	縦の隆帯懸垂文と斜縄文を施す。長石多し。淡黄褐色。	
84		"	"	"	No.75と同一個体。	
85		"	"	"	No.91と同一個体。	
86		"	口縁部	"	" S字状の突起部片。	
87		礫	砂岩			
88		"	花崗岩			
89		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	No.83と同一個体。	
90		石器	剥片・硬砂岩			
91		土器	深鉢・胴頸部	縄文中期末	沈線文と結節縄文を施す。長石粒多し。淡褐色。	
92		石器	剥片・頁岩			
93		陶器	天目茶碗・胴部		内外面ともに黒色の鉄釉を施す。胎土は白色。	
94	第11図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	No.30と同一個体。	III-2-A
95		"	"	"	斜縄文。長石・石英・雲母多し。淡褐色。	"
96		石器	凹石・花崗岩		凹部は、上面1ヶ所、下面2ヶ所、側面2ヶ所あり。	
97						
98	第15図	石器	丸石・硬砂岩			
99	第13図	土器	深鉢・口縁部	縄文後期	波状口縁をもち、無節斜縄文をつけた上に沈線で楕円文を施す。長石多し。淡褐色。	
100	第15図	石器	石皿・安山岩			
101		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	沈線文を施す。長石多し。淡褐色。	
102		石器	剥片・黒曜石			
103		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	No.83と同一個体。	
104		石器	丸石・粘板岩		すすけている。	
105		"	" 硬砂岩			
106		土師器	甕・胴部	11～12C	No.832と同一個体。	
107		須恵器	瓶・胴部	10～11C	外面に格子の叩き目を施す。器壁厚1cm。茶褐色釉。胎土ち密で、長石・石英粒を含む。	
108		土師器	甕・胴部	11～12C	No.832と同一個体。	
109		"	"	"	"	
110		鉄製品	鉄鏃		平根形。	
111		土器	深鉢・口縁部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。淡褐色。石英を多く含む。	II-1-D

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
112		小石	砂岩		No.832と同一個体。	
113		土師器	甗・胴部	11～12 C	"	
114	第13図	土器	深鉢・口縁部	縄文中期末	釣手付深鉢の口縁部と考えられる沈線で楕円区画をし、列点文を施す。内面、オコゲ付着。長石多し。暗褐色。	
115		土師器	" "	11～12 C	No.832と同一個体。	
116		"	" "	"	"	
117		"	" "	"	"	
118		鉄製品				
119						
120		須恵器	杯・胴部	10～11 C	内外ナデ整形。灰褐色。長石を含む。	
121		土師器	甗・胴部	11～12 C	No.832と同一個体。	
122		土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。繊維を含む。淡赤褐色。	II-3-A
123		土師器	甗・胴部	11～12 C	No.832と同一個体。	
124		"	" "	"	"	
125		"	" "	"	"	
126		石器	剥片・黒曜石			
127		石器	石匙・硬砂岩		剥片を利用してあり、未製品さを呈す。	
128	第13図	土器	釣手部破片	縄文中期末	ヘラ状工具により列点文を施している。黒色を呈す。長石粒多し。	
129		"	深鉢・胴部	"	無地の上に沈線を施す。淡褐色。石英多く含む。	
130		"	" "	"	No.129と同一個体。	
131		石器	搔器・黒曜石			
132						
133		石器	剥片・硬砂岩			
134		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	ヘラ削りの上に沈線と結節縄文を施す。長石多し。淡黄褐色。	
135		石器	剥片・チャート			
136	第15図	"	打製石斧		ホーンフェルス。刃部欠く。	
137		石器	剥片・硬砂岩			
138		"	丸石破片 "			
139		"	" "			
140	第13図	土器	深鉢・胴部	縄文中期末	No.537と同一個体。	
141	第7図	"	" "	縄文前期	単節斜縄文。繊維多し。長石粒含む。淡褐色。裏面、オコゲ付着。	II-1-A
142		"	" 胴部	縄文中期末	懸垂隆帯文と結節縄文を施す。No.921と同一。	
143		"	" "	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。長石多し。淡褐色。	II-1-D
144		礫	破片・粘板岩			
145		土器	深鉢・胴部	縄文前期	平行沈線を施す。器壁厚は4mm。石英含む。淡褐色。	
146		"	" "	"	斜縄文。繊維多し。石英多し。淡褐色。	II-1-A
147						
148		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。繊維若干。石英多し。淡茶褐色。	II-1-E
149		礫	剥片・花崗岩			
150		土器	深鉢・胴部	縄文早期末	櫛歯状器具による条線文。器壁厚は4mm。長石含む。淡灰褐色。	I-2-C
151		"	" 胴部	縄文中期末	No.134と同一個体。	
152		"	" 胴部	縄文前期	斜縄文を施す。胎土は細かい。淡褐色。	III-2-A
153		"	" "	" 早期末	無文。器壁厚は4mm。長石粒多し。淡黄褐色。	I-2-B
154		"	釣手部破片	縄文中期末	無文。全面タール状のススが付着。石英多し。	
155		石器	丸石破片・硬砂岩			
156	第7図	土器	深鉢・胴部	縄文早期末	櫛歯状施文具で交互の斜条線を施す。長石多し。淡褐色。	I-2-C
157		石器	剥片・硬砂岩			
158		"	すり石・花崗岩			
159		土器	深鉢・胴部	縄文早期末	無文。器壁厚は4mm。長石粒多し。淡褐色。	I-2-B
160		石器	凹石・花崗岩		凹部は、上面に2ヶ所あり。	
161		"	" "		凹部は、上面に1ヶ所あり。ススけている。	
162		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。No.708と同一個体。	II-1-E
163		"	" 胴部	"	無文。器壁厚は5mm。繊維若干。長石多し。淡褐色。	"
164		石器	剥片・硬砂岩			
165	第16図	"	凹石・花崗岩		凹部は上面1ヶ所、下面1ヶ所ずつあり。	
166		"	丸石破片・硬砂岩			
167		"	剥片・硬砂岩			

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
168						
169		石器	すり石・硬砂岩			
170						
171		土師器	甕・胴部	11~12C	内外ともにハケ整形。砂粒多し。淡褐色。	
172		土器	深鉢 "	縄文中期末	無文。長石多く含む。淡褐色。	
173		石器	丸石破片・頁岩			
174		陶器	瓶・胴部	12C以降	外面、横位・斜位のヘラナデ。淡褐色釉。胎土はやや荒く灰雑物多し。灰褐色を呈す。	
175	第7図	土器	深鉢・胴部	縄文早期末	表裏とも捺痕文。器壁厚は6mm。長石・石英多し。暗褐色。	I-1-C
176		石器	丸石破片・硬砂岩			
177		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡褐色。	II-1-D
178	第14図	石器	石鏃・チャート		有脚。	
179						
180		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は7mm。長石・石英含む。淡灰褐色。	II-1-D
181		"	" "	"	斜縄文。長石多し。淡褐色。	III-2-A
182		"	" 胴部	"	無文。器壁厚は5mm。極めて荒い石英含む。淡灰褐色。	II-1-D
183		"	" "	"	無文。器壁厚は6mm。長石・石英多し。淡褐色。	II-1-E
184		石器	剥片・黒曜石			
185		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。長石・石英多し。淡褐色。	II-1-D
186		"	" 胴部	縄文中期末	No70と同一個体。	
187		"	" 胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡褐色。	II-1-D
188		"	" "	"	斜縄文。長石・石英多し。淡褐色。	III-2-A
189		石器	剥片・黒曜石			
190		"	剥片・石英			
191		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡褐色。	II-1-D
192		石器	剥片・硬砂岩			
193						
194		土器	深鉢・口縁部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。やや外反する。長石含む。淡褐色。	II-1-D
195		"	" 胴部	"	無文。長石多く含む。淡褐色。	"
196		石器	剥片・硬砂岩			
197						
198		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡褐色。	II-1-D
199	第7図	"	" 口縁部	" 早期末	口縁にそい隆帯と波状文を貼り付ける。その上にくし状工具で列点を押す。胎土細かい。淡褐色。表面スス付着。	I-2-B
200						
201		小礫	硬砂岩			
202		礫	片麻岩			
203		土器	深鉢・胴部	縄文前期	胎土細かい。淡褐色。No870と同一個体。	III-3-A
204		"	" "	"	No870と同一個体。	"
205		"	" "	"	無文。器壁厚は5mm。裏面指痕。細かい長石含む。淡黄褐色。	II-1-D
206		"	" "	縄文中期末	単節斜縄文の上沈線の懸垂文を施す。長石多し。外面スス付着。	
207		"	" 胴部	"	無地に沈線文を施す。長石多し。淡褐色。	
208		"	" "	" 前期	無文。器壁厚は6mm。長石多し。繊維若干。淡褐色。	II-1-E
209		"	" "	"	無文。器壁厚は5mm。長石多し。褐色。	II-1-D
210		"	" "	"	無文。器壁厚は7mm。石英多し。褐色。	"
211		土師器	杯・胴部	11~12C	ナデ整形。胎土細かい。淡黄褐色。	
212		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	無文。砂粒多し。淡褐色。	
213	第13図	"	" "	"	単節斜縄文を施し、沈線で、楕円文を施す。長石多し。淡黄褐色。	
214	第19図	陶器	徳久利・口縁部	12C以降	口径3.7cm。調整悪し。長石含む。灰褐色。	
215		石器	剥片・石英			
216		礫	剥片・凝灰岩			
217		鉄製品	円形		つまみ状を呈す。	
218	第19図	陶器	碗・胴底部	12C以降	底径7cm。ナデ整形。糸切底。付け高台。灰白色を呈す。胎土ち密。高台部ススけている。	
219		土師器	杯・胴部	11~12C	ナデ整形。胎土細かい。淡黄褐色。	
220		石器	丸石破片・硬砂岩			
221	第7図	土器	深鉢・胴部	縄文早期末	葡萄状施文具による扇文。器壁厚は5mm。長石・石英多し。淡灰褐色。	I-2-C
222	第13図	土器	" 口縁部	縄文中期末	口唇部や外反する。隆帯で区画し、結節縄文を施す。長石多し。淡灰褐色。	
223		"	" 胴部	縄文前期	無文。No708と同一個体。	II-1-E

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
224		石器	剥片・黒曜石		使用痕あり。	
225		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚5mm。胎土細かい。淡褐色。	II-1-D
226		"	" "	"	無文。No.708と同一個体。	II-1-E
227		石器	剥片・硬砂岩			
228		土器	深鉢・胴下部	縄文前期	斜縄文。No.881と同一個体。	II-2-B
229		石器	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
230		小礫	硬砂岩			
231		土師器	甕・胴部	11~12C	縦位のナデ。金雲母多く含む。淡灰褐色。	
232						
233						
234		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は8mm。繊維若干・石英多し。淡褐色。	II-1-E
235		土師器	杯・胴部	11~12C	ナデ整形。胎土細かい。淡褐色。	
236		土器		時代不明	剥落が著しい。	
237		石器	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
238		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	No.134と同一個体。	
239		土師器	甕・胴部	11~12C	はげ目整形。胎土荒い。外面暗褐色。	
240	第7図	土器	深鉢・胴部	縄文早期末	表面浅い条痕文。器壁厚は5mm。長石・石英多し。淡褐色。	I-1-B
241	第11図	"	" "	" 前期	異状斜縄文。繊維・長石粒多し。淡褐色。表面スス付着。	II-3-E
242		石器	剥片・硬砂岩			
243		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。石英・雲母含む。淡灰褐色。	II-1-D
244		石器	敲打器・硬砂岩			
245		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は6mm。石英多し。淡褐色。	II-1-C
246		石器	丸石破片・硬砂岩			
247		陶器	長頸瓶・胴部	12C以降	No.1と同一個体。	
248		石器	剥片・硬砂岩		使用痕なし。自然面なし。	
249		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。若干繊維含む。淡褐色。	II-1-E
250		石器	剥片・黒曜石		使用痕若干あり。	
251		陶器	長頸瓶・胴部	12C以降	No.1と同一個体。	
252		土師器	甕・胴底部片	11~12C	ナデ整形。砂粒多く含む。淡灰褐色。	
253	第19図	陶器	長頸瓶・胴部	12C以降	No.1と同一個体。	
254		石器	丸石・硬砂岩			
255		土器	深鉢・胴部	縄文前期	単節斜縄文を施す。器壁厚は8mm。淡褐色。石英多く含む。	III-2-A
256		"	" 胴部	縄文中期末	無文。砂粒多く含む。淡黄褐色。	
257		石器	丸石破片・硬砂岩			
258		小礫	石刻・黒曜石			
259		小礫	破片・硬砂岩			
260		土師器	甕・胴部	11~12C	縦位のナデ。石英多く含む。淡褐色。	
261	第16図	石器	凹石・片麻岩		凹部は、上面2ヶ所、下面1ヶ所。	
262	"	"	" "		凹部は、上面1ヶ所、下面1ヶ所。	
263		"	すり石		焼石。ほぼ全面すってある。	
264		"	凹石・片麻岩		焼石。凹部は、上面1ヶ所。局部的にすってある。	
265	第17図	"	" "		凹部は上面2ヶ所、下面1ヶ所。台石。	
266		"	石刻・硬砂岩		ややススけている。	
267		"	凹石・片麻岩		凹部は、上面1ヶ所。	
268	第17図	"	" 片麻岩		凹部は、上面1ヶ所。ススけている。台石。	
269		"	" "		凹部はなめらかで、上面1ヶ所。	
270		土器	深鉢・胴部	縄文中期末		
271	第7図	"	" 口縁部	縄文前期	擦痕あり。口唇部刻み目あり。器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡茶褐色。	II-1-C
272		"	" 胴部	"	無文。ナデ痕あり。胎土細かい。淡褐色。器壁厚は4mm。	II-1-E
273		"	" "	"	無文。No.708と同一個体。	"
274		"	深鉢・胴部	"	無文。器壁厚は4mm。石英多し。淡黄褐色。	II-1-D
275		石器	剥片・黒曜石			
276		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。雲母多し。淡褐色。	II-1-D
277		石器	打製石斧		硬砂岩。刃部欠く。	
278		"	すり石・硬砂岩		円形で側面を敲打している。下面に凹部あり。	
279		"	凹石・片麻岩		焼石。凹部は上面1ヶ所、下面1ヶ所。	
280		"	すり石 "			

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
281						
282		石器	丸石破片・硬砂岩			
283		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。胎土荒く、石英多し。淡褐色。	II-1-D
284		礫	片麻岩			
285	第9図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	表裏とも捺痕。器壁厚は7mm。繊維多量、石英多し。淡赤褐色。	II-1-E
286		土器	深鉢	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。石英多し。淡黄褐色。	II-1-D
287	第9図	"	" 胴部	"	無文。器壁厚は8mm。細かい長石多し。裏面捺痕あり。暗褐色。	II-1-C
288		石器	凹石・片麻岩		凹部は上面1ヶ所。	
289	第7図	土器	深鉢・口縁部	縄文早期末	器壁厚4mm。長石多し。口唇部条線あり。灰褐色。	I-2-A
290	第11図	"	" 胴部	縄文前期	No.1029と同一個体。	III-1-A
291		石器	打製石斧		硬砂岩。剥片石器であり、使用痕あり。	
292		"	剥片・硬砂岩		若干使用痕あり。	
293	第7図	土器	深鉢・胴部	縄文早期末	表面捺痕文。裏面指痕。器壁厚は7mm。長石・石英多し。淡褐色。	I-1-C
294		土師器	甕・胴部		ナデ整形。長石多く含む。淡褐色。	
295		"	甕・胴部		荒いへう削り。砂粒多く含む。淡褐色。	
296		石器	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
297						
298	第7図	土器	深鉢・口縁部	縄文早期末	外面、斜条痕文。内面横位の捺痕。器壁厚は4mm。石英多し。暗褐色。	I-1-B
299						
300		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は7mm。長石・石英・雲母多し。淡褐色。	II-1-D
301		"	" 胴部	"	無文。器壁厚は5mm。石英・雲母多し。淡褐色。	II-1-B
302		石器	丸石・硬砂岩			
303		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。No.301と同一個体。	II-1-B
304						
305		石器	凹石・片麻岩		凹部は上面2ヶ所。	
306		土器	深鉢・胴部	縄文早期末	無文。器壁厚は4mm。胎土極めて細かい。淡黄褐色。	I-2-B
307		石器	石鏃・チャート		片莖と先端部欠く。	
308		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。細かい長石と荒い石英含む。暗褐色。	II-1-B
309		"	" 胴部	"	表裏とも捺痕。器壁厚は4mm。繊維若干・長石。淡褐色。	II-1-E
310		"	" 胴部	"	無文。器壁厚は5mm。長石含む。淡黄褐色。	II-1-D
311		小礫	剥片・硬砂岩			
312		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。細かい長石・石英含む。淡褐色。	II-1-B
313		"	" 胴部	"	無文。No.708と同一個体。	II-1-E
314		"	" 胴部	"	無文。器壁厚は5mm。胎土細かい。淡灰褐色。	II-1-D
315	第9図	"	" 胴部	"	無文。裏面指痕。器壁厚は6mm。細かい長石。淡黄褐色。	II-1-C
316		"	" 胴部	"	無文。器壁厚は5mm。石英・雲母多し。淡褐色。	II-1-D
317	第9図	"	" 胴部	"	表面捺痕。裏面指痕。器壁厚は6mm。石英多し。暗褐色。	II-1-E
318		石器	剥片・硬砂岩			
319		"	丸石・粘板岩			
320		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。No.708と同一個体。	II-1-E
321		"	" 胴部	"	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡褐色。	II-1-B
322	第15図	石器	打製石斧		未成品。硬砂岩。	
323		"	石鏃・黒曜石		片莖部欠く。	
324						
325		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。長石・石英多し。淡灰褐色。	II-1-D
326		"	" 胴部	縄文早期末	粘土紐を波状に交互に貼り付けている。長石・石英多し。淡褐色。器壁厚は4mm。	I-2-B
327	第7図	"	" 胴部	"	櫛歯状器具による条線文。器壁厚は5mm。長石・雲母。淡赤褐色。	I-2-C
328		"	" 胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。胎土極めて細かい。淡褐色。	II-1-D
329		"	" 胴部	"	剥落著しい。	
330						
331		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は6mm。若干繊維含む。淡黄褐色。	II-1-E
332	第7図	"	" 胴部	縄文早期末	表裏面条痕文。器壁厚は8mm。長石粒多し。淡灰褐色。若干繊維含む。	I-1-A
333		"	" 胴部	縄文前期	無文。No.708と同一個体。	II-1-E
334		"	" 胴部	" 早期末	条痕文。器壁厚は6mm。表面スス付着。長石多し。暗褐色。	I-1-B
335		小礫	砂岩			
336	第16図	石器	と石・片麻岩			
337		土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。No.881と同一個体。	II-2-B

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
338	第7図	土器	深鉢・胴部	縄文早期末	条痕文。器壁厚は5mm。長石・石英多し。淡褐色。	I-1-B
339		小礫	破片・硬砂岩			
340		石器	すり石・片麻岩		棒状を呈す。上・下面のみすってある。	
341		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。細かい長石と荒い石英含む。淡褐色。	II-1-D
342		土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。No881と同一個体。	II-2-B
343		小礫	剥片・硬砂岩			
344		"	"			
345		土器	深鉢・胴部	縄文前期	No30と同一個体。	III-2-A
346	第7図	"	" 口縁部	"	無文。口縁部刻み目あり。器壁厚は4mm。荒い石英含む。淡黄褐色。	II-1-C
347	"	"	" 胴部	"	無文。器壁厚は4mm。荒い石英含む。暗褐色。	II-1-B
348	"	"	"	"	No601と同一個体。	II-3-A
349	"	"	"	"	刺突文。No881と同一個体。	II-2-B
350	"	"	"	"	無文。器壁厚は5mm。銀雲母多し。淡黄褐色。	II-1-D
351	第9図	"	"	"	無文。器壁厚は6mm。繊維多し・石英多し。淡褐色。	II-1-E
352	第7図	"	"	"	単節斜縄文。繊維・長石粒多し。淡黄褐色。	II-1-A
353		石器	円形礫器		硬砂岩。	
354		"	敲打器		硬砂岩。局部的に敲打してある。	
355	第7図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。No783と同一個体。	II-1-A
356	"	"	" 口縁部	"	表面剥落著しい。器壁厚は6mm位。長石・石英多し。淡灰褐色。	
357		小礫	砂岩			
358		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡褐色。	II-1-D
359		小礫	剥片・硬砂岩			
360		石器	凹石・片麻岩		凹部は上面1ヶ所。	
361		"	すり石・花崗岩		焼石。ほぼ全面すってある。	
362	第9図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡褐色。	II-1-C
363	"	"	"	"	無文。器壁厚は4mm。石英多し。淡褐色。	II-1-D
364	第17図	石器	すり石・花崗岩			
365		"	丸石破片・硬砂岩			
366						
367	第9図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は6mm。繊維若干・砂粒含む。淡褐色。	II-1-E
368						
369		石器	凹石・片麻岩		凹部は片面に1ヶ所あるが、半面は剥落している。	
370	第15図	"	石錘・硬砂岩			
371		"	すり石・花崗岩			
372	第17図	"	" 片麻岩		焼石。	
373	第9図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。No881と同一個体。	II-2-B
374	"	"	" 胴部	"	無文。器壁厚は5mm。荒い長石・石英多し。暗褐色。	II-1-D
375	第14図	石器	石匙・チャート			
376	第9図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。No881と同一個体。	II-2-B
377	"	"	"	"	無文。器壁厚は5mm。長石・石英多し。淡灰褐色。	II-1-D
378	"	"	"	"	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡褐色。	"
379	第9図	"	"	"	斜縄文。No881と同一個体。	II-2-B
380		小礫	花崗岩			
381		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は7mm。長石・雲母多し。淡黄褐色。	II-1-D
382		石器	すり石破片		硬砂岩	
383		"	丸石砂片		硬砂岩	
384	第16図	"	凹石・片麻岩		凹部は、上面1ヶ所、下面1ヶ所。	
385		"	丸石・片岩			
386		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。裏面指痕。石英多し。暗褐色。	II-1-C
387						
388		礫	剥片・硬砂岩			
389		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。砂粒含む。淡褐色。	II-1-D
390	第15図	石器	剥片石器		硬砂岩。	
391		礫	破片・硬砂岩			
392		"	凹石・片麻岩		凹部は、上面1ヶ所、下面は剥落。	
393		土師器	甕・胴部	11~12C	No832と同一個体。	
394						

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
395		小礫	片麻岩			
396		"	"			
397		土師器	甕・胴部	11～12C	外面、荒いヘラナデ。内面ナデ整形。石英を含む。淡褐色を呈し、ススけている。	
398						
399						
400		小礫	片麻岩			
401		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。長石多し。淡茶褐色。	II-1-D
402		"	" "	" 中期末	無文。長石・石英多し。淡茶褐色。	
403		礫	緑泥片岩			
404		土器	すり石・片麻岩			
405		礫	剥片・硬砂岩			
406		土器	深鉢・胴部	縄文前期	剥落著しい。石英多し。淡褐色。	
407						
408		石器	石核・黒曜石			
409		"	" 片麻岩			
410		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡灰褐色。	II-1-D
411		"	" 胴部	縄文中期末	隆帯をV字状に貼り付けている。長石多し。淡黄褐色。	
412		"	" 胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。長石多し。淡黄褐色。	II-1-D
413						
414		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	隆帯懸垂文と、結節縄文を施す。長石多し。淡黄褐色。	
415		"	" "	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。石英多し。淡黄褐色。	II-1-B
416		小礫	花崗岩			
417		"	"			
418		"	"			
419		"	"			
420	第9図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	表裏ともに擦痕。器壁厚は6mm。長石・石英多し。暗褐色。表面スス、裏面オコゲ付着。	II-1-E
421		小礫	片麻岩			
422		石器	凹石・片麻岩		凹部は、上面1ヶ所、下面1ヶ所。	
423		小礫	花崗岩			
424		礫	"			
425		"	"			
426		土器	深鉢・口縁部	縄文前期	No.870と同一個体。	III-3-A
427		"	" 胴部	"	無文。器壁厚は8mm。石英多し。淡黄褐色。	II-1-D
428		"	" "	"	斜縄文。長石粒多し。淡褐色。	III-2-A
429		石器	剥片・石英			
430		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。石英多し。淡黄褐色。	II-1-D
431		礫	剥片・硬砂岩			
432		小礫	花崗岩			
433		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は8mm。長石・石英多し。暗褐色。	II-1-D
434		小礫	片麻岩			
435		"	剥片・硬砂岩			
436		"	" "			
437		石器	丸石・硬砂岩			
438		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。胎土細かい。淡黄褐色。	II-1-D
439		"	" "	"	無文。器壁厚は5mm。長石・石英多し。淡褐色。	"
440						
441		小礫	花崗岩			
442		土器	深鉢・胴部	縄文前期	擦痕を施す。器壁厚は7mm。石英多し。淡褐色。	II-1-C
443		石器	凹石・片麻岩		焼石。凹部は片面に1ヶ所。	
444		礫	花崗岩			
445		土器	深鉢・胴部	縄文前期	擦痕あり。器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡褐色。	II-1-C
446		石器	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
447		"	" チャート		"	
448		"	丸石破片		硬砂岩。	
449		"	石核・黒曜石			
450		"	丸石破片		硬砂岩。	
451		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚4mm。裏面指痕。細かい長石と荒い石英。淡灰褐色。	II-1-E

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
452		石器	剥片・黒曜石		使用痕若干あり。	
453		土器	深鉢・口縁部	縄文前期	No870と同一個体。	Ⅲ-3-A
454		石器	丸石・硬砂岩			
455		"	すり石・片麻岩			
456						
457	第9図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。石英・雲母多し。暗褐色。	Ⅱ-1-D
458	第11図	"	" "	"	No464と同一個体。	Ⅱ-3-B
459		礫	片麻岩			
460		石器	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
461		小礫	砂岩			
462		礫	硬砂岩			
463	第11図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	No613と同一個体。	Ⅲ-2-A
464	"	"	" 胴部	"	無節斜縄文。裏面指痕と擦痕。長石粒多し。淡黄褐色。	Ⅱ-3-B
465		小礫	砂岩			
466		礫	破片・花崗岩			
467		土師器	甕・胴部	11~12C	No832と同一個体。	
468		土器	深鉢・胴部	縄文前期	単節斜縄文を施す。器壁厚は6mm。胎土細かい。淡褐色。	Ⅲ-2-A
469		"	" "	縄文中期末	No921と同一個体。	
470		石器	すり石・硬砂岩		敲打してある。棒状を呈す。	
471		礫	破片・片麻岩			
472		石器	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
473		土器	釣手部破片	縄文中期末	無文。断面V字状をなし、中央部でH形をなす。淡褐色。	
474		石器	丸石破片		硬砂岩。	
475		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	No921と同一個体。	
476	第13図	"	" "	"	"	
477		"	" "	"	"	
478		"	" "	"	"	
479		"	" "	"	"	
480	第16図	石器	凹石・片麻岩		すすが付着。凹部は上面4ヶ所、下面1ヶ所。	
481		小礫	破片・片麻岩			
482		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	No921と同一個体。	
483		"	" "	"	"	
484		"	" "	"	"	
485		"	" "	"	"	
486		"	" "	"	"	
487		"	" "	"	"	
488		"	" "	"	"	
489		"	" "	"	"	
490		石器	剥片・黒曜石			
491						
492		陶器	坏	12C以降	灰釉。胎土はち密で灰白色。	
493		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	No70と同一個体。	
494		小石	砂岩			
495		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	結節縄文を施す。長石粒多く含む。淡黄褐色。	
496		"	" 胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡褐色。	Ⅱ-1-D
497		"	" "	縄文中期末	No134と同一個体。	
498		"	" "	"	No70と同一個体。	
499		土師器	杯・口縁部		口唇部やや外反。ナブ整形。金雲母多く含む。淡褐色。	
500		石器	丸石・硬砂岩			
501		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	No921と同一個体。	
502		小礫	剥片・硬砂岩			
503		小石	砂岩			
504		小礫	片麻岩			
505		"	剥片・硬砂岩			
506		土師器	甕・胴部	11~12C	ヘラ削り。内面ハケ目整形。砂粒多く含む。淡褐色。	
507		石器	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
508		小礫	" 緑泥片石			

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
509		小 礫	片麻岩			
510		"	剥片・硬砂岩			
511		石 器	石鏃・黒曜石		片脚欠く。	
512		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は6mm。砂粒含む。淡褐色。	II-1-D
513		"	" "	"	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡褐色。	"
514		"	" 胴下部	"	無文。器壁厚は6mm。細かい長石と荒い石英含む。淡褐色。	II-1-B
515		"	" 胴部	" 中期末	No75と同一個体。	
516		石 器	丸石・硬砂岩		局部すってある。	
517		土 器	深鉢・胴部	縄文中期末	No921と同一個体。	
518		石 器	石核・硬砂岩			
519		"	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
520		"	丸石・硬砂岩			
521		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。荒い石英と細かい長石含む。淡褐色。	II-1-C
522		"	" 胴部	"	無文。器壁厚は4mm。砂粒多く含む。淡褐色。	II-1-D
523		石 器	片麻岩		焼石。	
524		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	No30と同一個体。	III-2-A
525		石 器	凹石・片麻岩		凹部は上面に1ヶ所。	
526		礫	剥片・硬砂岩			
527		石 器	丸石破片・砂岩			
528		"	凹石・片麻岩		凹部は、上面3ヶ所、下面3ヶ所。	
529		"	すり石・硬砂岩			
530		"	すり石・花崗岩			
531		土 器	不明	縄文	剥落著しい。	
532		"	" 胴部	" 前期	斜縄文。No881と同一個体。	II-2-B
533		"	" 胴部	" "	無文。No708と同一個体。	II-1-E
534		"	" 胴部	" "	剥落著しい。	
535	第11図	"	" "	" "	No1017と同一個体。	II-3-C
536		礫	破片・砂岩			
537	第13図	土 器	深鉢・口縁部	縄文中期末	単節斜縄文の上に沈線で楕円文を施す。石英多し。灰褐色。	
538		"	" 胴部	" 前期	擦痕あり。器壁厚は4mm。石英多く含む。灰褐色。	II-1-C
539	第16図	石 器	凹石・花崗岩		焼石。凹部は上面1ヶ所、下面1ヶ所。下面はすってある。	
540		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。No881と同一個体。	II-2-B
541		石 器	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
542	第11図	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	No601と同一個体。	II-3-A
543		"	" 口縁部	"	刺突文。No881と同一個体。	II-2-B
544		"	" 胴部	"	無文。裏面指痕。器壁厚は5mm。長石・石英多し。淡褐色。	II-1-D
545						
546	第11図	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	No1029と同一個体。	III-1-A
547		小 石	砂岩			
548		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	擦痕あり。器壁厚は5mm。胎土細かい。淡茶褐色。	II-1-C
549		"	" "	"	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡褐色。	II-1-D
550		"	" "	"	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡灰褐色。	"
551		小 礫	片麻岩			
552		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無節斜縄文。長石粒多し。裏面擦痕。淡褐色。	II-3-B
553	第11図	"	" "	"	No1017と同一個体。	II-3-C
554		石 器	剥片・黒曜石			
555	第9図	土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は6mm。繊維多量・細かい長石含む。淡黄褐色。	II-1-E
556						
557		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	擦痕あり。器壁厚は4mm。長石多し。淡茶褐色。	
558		"	" "	"	無文。器壁厚は5mm。荒い長石・石英多し。淡灰褐色。	II-1-D
559		"	" 胴部	"	無文。器壁厚は4mm。石英多し。淡褐色。	"
560		"	" "	"	無文。器壁厚は5mm。石英多し。暗褐色。	"
561		"	" "	"	No560と同一個体。	"
562		石 器	丸石・片岩			
563		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	擦痕あり。器壁厚は5mm。胎土細かい。淡褐色。	II-1-C
564		石 器	丸石・硬砂岩			
565		土 器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は9mm。石英多し。淡褐色。	II-1-D

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
566	第15図	石器	打製石斧・破片		緑泥片岩。短冊形で、頭部と刃部欠く。	
567	第7図	土器	深鉢・胴上部	縄文早期末	器壁厚5mm、長石・金雲母多し。淡茶褐色。	I-2-A
568	第9図	"	" 胴部	" 前期	無文。裏面指痕。器壁厚は6mm。細かい長石。淡褐色。	II-1-C
569		"	" " "	" " "	無文。器壁厚は5mm。石英多し。淡褐色。	II-1-D
570		石器	剥片・黒曜石			
571		"	円形敲打器		硬砂岩。側面を敲いている。	
572		土器	杯・胴部	11~12C	内黒。ナズ整形。金雲母多し。淡褐色。	
573	第11図	土器	深鉢・口縁部	縄文前期	No.464と同一個体。	II-3-B
574	第17図	石器	円形敲打器		硬砂岩。側面を敲いている。	
575		"	剥片・チャート		使用痕なし。	
576		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡茶褐色。	II-1-D
577						
578	第7図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。細かい長石と石英含む。淡褐色。	II-1-B
579						
580		土器	深鉢・胴部	縄文前期	剥落著しい。器壁厚は5mm。砂粒多し。茶褐色。	
581		小礫	片麻岩			
582	第13図	土器	深鉢・胴部	縄文中期末	隆帯を2条、波状に貼り付け、その上にヘラ先で刻み目を施す。長石多し。暗褐色。	
583		小礫	砂岩			
584		土器	深鉢・底部	縄文中期末	網代底。	
585	第11図	"	深鉢・個体	縄文前期	No.870と同一個体。	III-3-A
586	"	"	" " "	" " "	"	"
587	"	"	" " "	" " "	"	"
588						
589		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。胎土細かい。淡黄褐色。	II-1-D
590		"	" " "	" " "	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡褐色。	"
591		礫	剥片・硬砂岩			
592		小石	砂岩			
593	第11図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	No.959と同一個体。	III-1-B
594		"	" " "	" " "	無文。器壁厚は4mm。長石細粒多し。淡褐色。	II-1-D
595	第7図	"	" " "	" 早期末	表裏とも擦痕文。器壁厚は6mm。石英多し。淡褐色。	I-1-C
596		小礫	花崗岩			
597		土器	深鉢・胴部	縄文前期	No.953と同一個体。	II-2-A
598						
599		石器	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
600		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡黄褐色。	II-1-D
601	第11図	"	" 口縁部	"	単節斜縄文。裏面擦痕あり。長石・石英多し。淡灰褐色。	II-3-A
602						
603		土器	深鉢・胴部	縄文前期	No.953と同一個体。	II-2-A
604		"	" " "	" " "	単節斜縄文を羽状に施す。長石粒多し。淡黄褐色。	
605		"	" " "	" " "	無文。	
606		"	" " "	" " "	無文。	
607	第7図	"	深鉢・口縁部	縄文早期末	器壁厚は4mm。無織維。口唇部刺突あり。長石・石英。暗褐色。	I-2-B
608		"	" 胴部	" 前期	無文。器壁厚は5mm。石英多し。茶褐色。	II-1-D
609		石器	すり石・花崗岩			
610		土器	深鉢・胴部	縄文前期	No.881と同一個体。	II-2-B
611		石器	石核・黒曜石			
612		"	凹石・片麻岩		凹部は、上面2ヶ所、側面1ヶ所。	
613	第11図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。長石・石英多し。淡褐色。	III-2-A
614		石器	丸石破片・硬砂岩			
615		石器	凹石・片麻岩		凹部は、上面に1ヶ所。台石。	
616		"	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
617		"	丸石破片・硬砂岩			
618		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。No.708と同一個体。	II-1-E
619		"	" 胴部	"	無文。器壁厚は4mm。裏面指痕細かい長石・石英。淡灰褐色。	II-1-C
620		石器	丸石・硬砂岩			
621		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡茶褐色。	II-1-D
622		礫	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
623	第7図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	隆帯文と斜縄文。繊維・長石多し。器壁厚は8mm。淡茶褐色。	II-1-A
624		礫	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
625		石器	凹石・片麻岩		凹部は、上面1ヶ所、下面1ヶ所。	
626		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。細かい長石含む。淡褐色。	II-1-C
627		石器	凹石・片麻岩		凹部は上面1ヶ所。	
628		礫	破片・花崗岩			
629		〃	剥片・硬砂岩			
630		石器	凹石・片麻岩		凹部は上面2ヶ所、下面1ヶ所。	
631	第15図	〃	すり石・硬砂岩		ほぼ全面すってある。	
632		〃	凹石・片麻岩		凹部は下面1ヶ所。	
633		〃	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
634		土器	深鉢・胴部	縄文前期	表表面擦痕。裏面指痕。細かい長石・石英。器壁厚は5mm。暗褐色。	II-1-C
635						
636		土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。No.881と同一個体。	II-2-B
637		〃	〃 胴部	〃	無文。器壁厚は8mm。繊維を含む。淡黄褐色。	II-1-E
638		〃	〃 〃	〃	斜縄文を施す。器壁厚は8mm。砂粒多し。淡茶褐色。	III-2-A
639		〃	〃 〃	〃	斜縄文。No.881と同一個体。	II-2-B
640		石器	凹石・片麻岩		凹部は下面に1ヶ所。	
641		〃	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
642		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は9mm。長石・石英多し。淡茶褐色。	II-1-D
643						
644		土器	深鉢・胴部	縄文中期	無文。砂粒多く含む。淡黄褐色。	
645		〃	〃 〃	〃 前期	無文。器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡黄褐色。	II-1-D
646		石器	剥片・黒曜石		使用痕あり。	
647		土器	深鉢・胴部	縄文前期	擦痕。器壁厚は5mm。長石多し。淡黄褐色。	II-1-D
648		〃	〃 〃	〃	単節斜縄文。繊維・長石・石英多し。淡黄褐色。	II-1-A
649		石器	すり石・安山岩			
650		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。荒い石英含む。淡褐色。	II-1-D
651		〃	〃 口縁部	〃	No.996と同一個体。	II-3-D
652		礫	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
653		石器	敲打器破片		礫岩。	
654		土師器	甕・底部	11~12C	木葉圧痕あり。ヘラ削り。長石・石英多し。底径10cm。淡褐色。	
655		陶器	皿	12C以降	灰釉。No.933と同一個体。	
656		石器	丸石・硬砂岩			
657						
658		石器	すり石・花崗岩		下面をすってある。	
659		土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。No.30と同一個体。	III-2-A
660		土師器	甕・胴部	11~12C	はけ整形。砂粒多し。淡褐色。	
661		礫	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
662	第7図	土器	深鉢・口縁部	縄文前期	口唇部刻み目あり。器壁厚は4mm。細かい雲母・長石・石英含む。淡灰褐色。	II-1-C
663		小礫	砂岩			
664		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡褐色。	II-1-D
665		陶器	杯・口縁部	12C以降	灰釉。ナデ整形。胎土は灰白色を呈す。	
666		礫	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
667		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は6mm。砂粒多し。淡茶褐色。	II-1-D
668		〃	〃 〃	〃	無文。器壁厚は6mm。長石粒多し。淡茶褐色。	〃
669	第7図	〃	〃 〃	〃 早期末	表面擦痕。裏面指痕。器壁厚は7mm。繊維・長石多し。淡黄褐色。	I-1-1-C
670		石器	石核・黒曜石			
671		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	剥落が著しい。長石・石英・雲母多し。淡黄褐色。	
672		〃	〃 〃	〃 前期	無文。器壁厚は5mm。胎土細かい。淡黄褐色。	II-1-D
673		〃	〃 胴部	〃 中期末	No.134と同一個体。	
674		〃	〃 胴部	〃 〃	沈線を施す。細かい長石粒多し。淡茶褐色。	
675		〃	〃 〃	〃 〃	沈線で楕円文と懸垂文を施す。砂粒多し。淡褐色。	
676		石器	敲打器		硬砂岩。両端を敲いている。	
677		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	No.674と同一個体。	
678						
679		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無節の縄文を押し消している。器壁厚5mm。長石多し。淡茶褐色。	II-3-B

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
680		土器	深鉢・胴部	縄文前期	擦痕あり。器壁厚は5mm。石英粒多し。淡茶褐色。	II-1-C
681		"	"	"	斜縄文。石英多し。淡褐色。	III-2-A
682		"	"	"	斜縄文。長石多し。淡褐色。	III-2-A
683		"	"	"	無文。器壁厚は4mm。石英粒含む。淡茶褐色。	II-1-D
684		"	"	" 早期末	表裏とも擦痕文。器壁厚は6mm。白雲母・石英多し。茶褐色。	I-1-C
685	第11図	"	"	縄文前期	No601と同一個体。	II-3-A
686		土師器	杯・胴底部	11~12C	ナデ整形。胎土はち密。淡褐色。底径は測れず。	
687	第13図	土器	深鉢・胴部	縄文中期末	縦の隆帯懸垂文と結節縄文を施す。長石・石英多し。外面スス付着。茶褐色。	
688	"	"	"	"	No687と同一個体。	
689		"	"	" 前期	剥落著しい。器壁厚は7mm。砂粒多し。淡茶褐色。	
690	第17図	石器	円形敲打器		砂岩。側面を敲打している。	
691		"	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
692		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。石英粒多し。淡褐色。	II-1-D
693						
694		土器	深鉢・胴部	縄文前期	表面擦痕。器壁厚は5mm。長石・石英多し。茶褐色。	II-1-D
695		"	"	"	表面擦痕。裏面指痕。器壁厚は5mm。細かい長石。灰褐色。	II-1-C
696	第7図	"	口縁部	" 早期末	器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡茶褐色。	I-2-B
697		"	胴部	" 前期	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡褐色。	II-1-D
698						
699	第17図	石器	円形敲打器		花崗岩。ススけている。側面を敲打している。	
700		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。繊維多量・石英多し。淡黄褐色。	II-1-E
701		礫	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
702		石器	"		剥片石器。若干使用痕あり。	
703		土器	深鉢・胴部	縄文中期	No72と同一個体。	
704		"	胴部	" 前期	無文。器壁厚は5mm。石英粒多し。淡褐色。	
705	第7図	"	"	" 早期末	表裏とも擦痕文。器壁厚は7mm。繊維・石英・長石多し。淡褐色。	I-1-C
706		礫	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
707		陶器	瓶・口縁部	11~12C	No2と同一個体。	
708		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。繊維若干・細かい長石多し。淡褐色。裏面スス付着。	II-1-E
709		礫	片麻岩		使用痕なし。	
710		土器	深鉢・胴部	縄文前期	No30と同一個体。	III-2-A
711		石器	円形敲打器		硬砂岩。	
712		"	丸石・硬砂岩			
713	第7図	土器	深鉢・口縁部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。細かい長石と荒い石英含む。暗褐色。	II-1-B
714		"	胴部	"	No613と同一個体。	III-2-A
715		"	口縁部	"	無文。器壁厚は4mm。砂粒多く含む。淡褐色。	II-1-D
716	第16図	石器	凹石・片麻岩		凹部は、上面1ヶ所。下面1ヶ所。	
717		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。砂粒多く含む。淡茶褐色。	II-1-D
718		小礫	砂岩			
719		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。砂粒多く含む。淡黄褐色。	II-1-D
720	第11図	"	深鉢・口縁部	"	No870と同一個体。	III-3-A
721	"	"	"	"	"	"
722	"	"	"	"	"	"
723		石器	剥片・黒曜石		使用痕あり。	
724	第9図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡褐色。	II-1-D
725		陶器	碗・胴部	11~12C	灰青色釉。胎土ち密で、灰白色を呈す。	
726		礫	剥片・硬砂岩			
727		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。胎土細かい。淡黄褐色。	II-1-D
728		"	"	"	単節斜縄文を施す。器壁厚は6mm。長石粒多し。茶褐色。	III-2-A
729		"	"	"	無文。器壁厚は6mm。砂粒多し。淡褐色。	II-1-D
730		"	"	縄文中期末	No134と同一個体。	
731		石器	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
732	第13図	土器	釣手部破片	縄文中期末	ヘラ先で列点文を楕円状に施す。石英多し。淡褐色。	
733	第7図	"	深鉢・胴部	" 前期	単節斜縄文。繊維・長石多し。淡褐色。	II-1-A
734		小石	砂岩			
735		"	"			
736		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	No75と同一個体。	

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
737						
738		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	No921と同一個体。	
739	第19図	陶器	碗・胴底部	11～12C	底径7.0cm, ナテ整形。胎土ち密で、長石粒含む。灰白色を呈す。	
740	第11図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	No601と同一個体。	II-3-A
741						
742		土器	深鉢・口縁部	縄文中期末	口唇部を肥厚させ、縦の単節斜縄文を施す。長石粒多し。淡褐色。	
743		"	" 胴部	" 前期	剥落著しい。器壁厚は1cm。長石粒多し。淡褐色。	III-2
744						
745		石器	石鏃・黒曜石			
746	第14図	"	撻器・黒曜石			
747		土器	深鉢・胴部	縄文前期	表裏とも擦痕、繊維若干・長石・雲母多し。暗褐色。	II-1-E
748		"	" 胴部	"	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡黄褐色。	II-1-D
749		石器	凹石・片麻岩		凹部は下面1ヶ所。	
750		土器	深鉢・胴部	縄文前期	No743と同一個体。単節斜縄文を施す。	III-2-A
751		"	" 胴部	" 中期末	No921と同一個体。	
752		礫	剥片・緑泥片岩		使用痕なし。	
753		土器	深鉢・胴部	縄文前期	擦痕あり。器壁厚は5mm。胎土細かい。淡黄褐色。	II-1-C
754		石器	凹石・片麻岩		凹部は、上面1ヶ所、下面2ヶ所。	
755		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無節斜縄文。長石粒多し。淡褐色。	II-3-B
756	第11図	"	" 胴部	"	No13と同一個体。	II-3-B
757		小石	砂岩			
758						
759		土器	深鉢・胴部	縄文前期	単節斜縄文を施す。器壁厚は7mm。長石粒多し。淡褐色。	III-2-A
760		"	" "	"	単節斜縄文を施す。器壁厚は8mm。石英多し。淡褐色。	"
761	第9図	"	" "	"	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡褐色。	II-1-C
762		"	" "	"	No761と同一個体。	"
763		"	" "	"	無文。器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡褐色。	II-1-D
764		"	" "	"	単節斜縄文を施す。器壁厚は9mm。砂粒多し。淡茶褐色。	III-2-A
765		"	" "	"	No464と同一個体。	II-3-B
766		土師器	甗・胴部	11～12C	ナテ整形。砂粒多く含む。淡褐色。	
767		礫	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
768		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。長石・石英多し。淡黄褐色。	II-1-D
769		"	" "	"	無文。器壁厚は4mm。長石粒多し。淡茶褐色。	"
770		"	" "	"	無文。器壁厚は4mm。石英粒多し。淡褐色。	"
771		"	" "	"	無文。器壁厚は5mm。砂粒と雲母多し。暗褐色。	"
772		石器	凹石・片麻岩		凹部は1ヶ所。	
773		土師器	甗・胴部	11～12C	はげ目整形。砂粒多く含む。淡褐色。	
774	第19図	土師器	杯・底部	"	底径6.6cm, 右回りの糸切り底。ナテ整形。石英・長石・白雲母含む。淡褐色。	
775		土器	深鉢・胴部	縄文前期	No464と同一個体。	II-3-B
776		"	" 胴部	"	無文。器壁厚は4mm。石英粒多し。淡茶褐色。	II-1-D
777		"	" "	"	無文。器壁厚は4mm。石英粒多し。淡褐色。	"
778	第13図	"	" "	" 中期末	沈線文で区画し、結節縄文と斜縄文を施す。茶褐色。長石多し。	
779		"	深鉢・胴部	" 前期	無文。器壁厚は4mm。石英粒多し。淡灰褐色。	II-1-D
780		土師器	杯・胴部	11～12C	ナテ整形。長石・雲母粒多し。淡褐色。	
781		"	甗・胴部	"	No832と同一個体。	
782	第7図	土器	深鉢・口縁部	縄文早期末	器壁厚は4mm。波状口縁。長石・石英多し。淡褐色。	I-2-B
783	"	"	" 胴部	" 前期	隆管文と斜縄文。器壁厚は8mm。繊維・石英・長石多し。淡黄褐色。	II-1-A
784	"	"	" "	"	単節斜縄文。繊維・長石多し。淡褐色。	II-1-A
785		土師器	杯・口縁部	11～12C	内黒。ナテ整形。内面、ヘラミカギ。長石粒を多く含む。灰褐色を呈す。	
786		石器	凹石・花崗岩		凹部は下面1ヶ所。	
787		土器	深鉢・胴部	縄文早期末	外面擦痕。内面浅い条痕文。器壁厚は5mm。長石多し。淡灰褐色。	I-1-B
788		土師器	杯・胴底部	11～12C	内黒。ナテ整形。荒い長石粒含む。淡褐色。	
789		"	甗・底部	"	底径7.0cm。ヘラナテ整形。石英・長石・白雲母を含む。淡褐色。	
790		"	甗・胴部	"	外面ヘラナテ。内面ヘラナテとナテ整形。石英・雲母多く含む。淡褐色。	
791		"	甗・胴部	"	ナテ整形。砂粒多し。淡灰褐色。	
792		"	甗 "	"	外面ヘラナテ。内面はナテ整形。石英・雲母を含む。淡褐色。	
793		"	甗・胴部	"	外面ヘラナテ。内面はげ目整形。石英・雲母多し。淡褐色。	

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
794		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。石英粒多し。淡褐色。	II-1-D
795		土師器	杯・胴底部	11~12C	内黒。ナテ整形。長石・石英多し。淡茶褐色。	
796		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。砂粒多し。淡褐色。	II-1-D
797		"	"	"	無文。器壁厚は4mm。砂粒多し。淡茶褐色。	"
798		"	"	"	擦痕あり。器壁厚は5mm。砂粒多し。淡褐色。	II-1-C
799		"	"	" 中期末	No.778と同一個体。	
800		"	"	" 前期	無文。器壁厚は6mm。荒い石英含む。淡黄褐色。	II-1-D
801	第9図	"	"	"	無文。器壁厚は7mm。荒い石英含む。淡褐色。	"
802	"	"	胴部	"	無文。器壁厚は5mm。裏面指痕。細かい長石と荒い石英。表面オコゲ付着。茶褐色。	II-1-C
803		礫	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
804		土師器	甕・胴部	11~12C	No.817と同一個体。	
805		"	甕・胴部	"	多面。縦位はげ目整形。内面ナテ整形。長石・石英多く含む。暗褐色。	
806	第7図	土器	深鉢・口縁部	縄文早期末	器壁厚は5mm。波状口縁。石英・雲母。指頭圧痕あり。灰褐色。	I-2-B
807						
808		土器	深鉢・胴部	縄文中期	沈線の懸垂文を施す。長石・石英粒多し。黒褐色。	
809		土師器	甕・胴部	11~12C	No.805と同一個体。	
810		"	"	"	"	
811	第14図	石器	石鏃・黒曜石		有脚。	
812		土師器	甕・胴部	11~12C	No.805と同一個体。	
813		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。石英・長石粒多し。淡褐色。	II-1-D
814		土師器	甕・胴部	11~12C	No.805と同一個体。	
815		"	"	"	"	
816		"	"	"	"	
817		"	甕・胴部	"	内外、ナテ整形。長石・石英多く含む。内面オコゲ付着。淡茶褐色。	
818		"	"	"	No.817と同一個体。	
819		石器	すり石・花崗岩		土器の粘土へまぜる原料としてのすり石。	
820		土師器	甕・胴部	11~12C	No.805と同一個体。	
821		"	"	"	"	
822		"	"	"	"	
823		"	"	"	"	
824		"	杯・胴部	"	内黒。ナテ整形。雲母多し。淡褐色。	
825		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4mm。胎土細かい。淡黄褐色。	II-1-D
826		石器	凹石・花崗岩		凹部は上面に1ヶ所。焼石。	
827		土師器	甕・胴部	11~12C	No.805と同一個体。	
828		小礫	花崗岩			
829		土師器	甕・胴部	11~12C	No.805と同一個体。	
830	第14図	石器	石鏃・黒曜石			
831		土師器	甕・胴部	11~12C	No.832と同一個体。	
832		"	甕・胴部	"	外面縦位の、内面横位のはげ目整形。胴径18cm。長石・石英・金雲母多く含む。暗褐色。外面スス付着。	
833		"	"	"	No.832と同一個体。	
834		"	"	"	"	
835		土器	深鉢	縄文前期	無文。器壁厚は6mm。石英多し。淡灰褐色。	II-1-D
836	第13図	"	釣手部破片	" 中期末	へら先で、列点文を施し、楕円状を呈す。長石多し。淡褐色。	
837	第9図	"	深鉢・胴部	" 前期	無文。器壁厚は6mm。荒い石英含む。黒褐色。	II-1-D
838		"	胴部	" 中期末	No.921と同一個体。	
839		土師器	甕・胴部	11~12C	No.805と同一個体。	
840		"	口縁部	"	"	
841		"	胴部	"	"	
842		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。長石・石英多し。茶褐色。	II-1-D
843		陶器	坏? 胴部	12C以降	淡緑色釉。胎土は淡灰色で、ち密。	
844	第19図	"	皿・口縁部	"	内面、灰釉付着。ナテ整形。胎土はち密で灰白色。	
845		土器	深鉢・胴部	縄文中期	No.921と同一個体。	
846		"	"	" 早期末	表面浅い条痕文。器壁厚は5mm。長石多し。表面スス付着。暗褐色。	II-i-D
847		土師器	杯・口縁部	11~12C	内黒。ナテ整形。長石粒多し。淡褐色。	
848		"	甕・胴部	"	No.849と同一個体。	

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類		
849		土師器	甕・底部	11～12 C	底径6 cm。木葉圧痕あり。長石・石英多く含む。外面へら削り。内面へらナデ。スス付着。暗褐色。			
850		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5 mm。長石粒多し。淡褐色。	II-1-D		
851		土師器	甕・口縁部	11～12 C	No.832と同一個体。			
852								
853								
854		土師器	甕・胴部	11～12 C	No.832と同一個体。			
855		〃	〃	〃	〃			
856		〃	甕・胴部	〃	外面、縦維のへらナデ。内面、横位のナデ。石英粒多し。淡褐色。			
857	第15図	石器	凹石・硬砂岩		側面敲打してある。			
858		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。繊維若干。長石粒多し。裏面オコゲ付着。淡褐色。	II-1-A		
859	第15図	石器	打製石斧		硬砂岩。短冊形。			
860	第19図	土師器	杯・口縁部	11～12 C	1/2個体。口径14.4 cm。ナデ整形。口唇部やや肥厚で、外反する。白雲母多し。淡赤褐色。			
861		〃	甕・胴部	〃	No.832と同一個体。			
862		〃	甕・胴部	〃	へら削り。白雲母・石英粒多し。暗褐色。			
863		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5 mm。石英・長石粒多し。淡褐色。	II-1-D		
864	第9図	〃	〃	〃	無文。表面擦痕。器壁厚は4 mm。荒い長石・石英含む。淡褐色。	〃		
865		〃	〃	〃	無文。器壁厚は5 mm。石英粒多し。淡黄褐色。	〃		
866		〃	〃	〃	無文。器壁厚は4 mm。細かい石英・長石含む。淡灰褐色。	II-1-C		
867		〃	釣手部破片	縄文中期末	無文。スス付着。胴部には、沈線と結節縄文が施されると考えられる。長石多し。淡褐色。			
868		〃	深鉢・胴部	〃	No.70と同一個体。			
869		〃	〃	〃	前期	表面擦痕文。裏面指痕。器壁厚は7 mm。石英多し。淡褐色。裏面オコゲ付着。	II-1-C	
870	第11図	〃	〃	〃	〃	個体	口径16.4 cm。底径8.4 cm。木葉圧痕。表裏とも、条痕状の整形をしている。長石多し。淡茶褐色。	III-3-A
871		礫	輝緑岩		土器粘土への混材料。			
872		土器	深鉢・胴部	縄文前期	擦痕あり。器壁厚は4 mm。石英粒多し。淡褐色。	II-1-C		
873		石器	剥片・黒曜石					
874		土師器	杯・口縁部	11～12 C	内黒。ナデ整形。雲母・石英含む。淡褐色。			
875		石器	石鏃・石英		調整不充分。			
876		小礫	〃		土器粘土への混材料。			
877		石器	〃		黒曜石			
878		〃	凹石・片麻岩		使用痕あり。			
879		〃	石核・チャート		凹部は、下面にあり、浅く広い。			
880	第11図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。長石多し。淡灰褐色。	III-2-A		
881	第9図	〃	〃	〃	口縁部	半截竹管状施文具で2条の並行刺突文を施す。暗赤褐色。長石・石英多し。裏面指痕。器壁厚は6 mm。	II-2-B	
882	〃	〃	〃	〃	胴部	刺突文。No.881と同一個体。	〃	
883		石器	剥片・頁岩					
884		礫	〃		硬砂岩			
885		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5 mm。長石多し。暗褐色。	II-1-D		
886		〃	〃	〃	胴部	隆帯文と斜縄文。No.623と同一個体。	II-1-A	
887	第11図	〃	〃	〃	胴底部	No.756と同一個体。底径8 cm。	II-3-B	
888	第16図	石器	凹石・片麻岩		凹部は、上面2ヶ所、下面2ヶ所。			
889		土器	深鉢・底部	縄文前期	底径8 cm。No.881と同一個体。	II-2-B		
890		礫	剥片・硬砂岩		使用痕なし。			
891	第11図	土器	深鉢・胴底部	縄文前期	No.887と同一個体。	II-3-B		
892								
893		石器	すり石・片麻岩		側面すってある。			
894		〃	丸石・硬砂岩					
895	第19図	須恵器	瓶・胴部	10～11 C	No.107と同一個体。			
896		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5 mm。石英・長石含む。淡茶褐色。	II-1-D		
897		石器	丸石・硬砂岩					
898		石器	すり石・片麻岩					
899	第7図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は4 mm。細かい長石・石英含む。淡黄褐色。	II-1-B		
900	第15図	石器	敲打器・硬砂岩		先端を敲打し、側面をすっている。			
901		土器	深鉢・胴部	縄文中期末	沈線を施す。長石・石英多し。淡灰褐色。			
902		陶器	杯・胴部		ナデ整形。透明釉を施す。胎土は灰白色。			

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
903		石器	凹石・花崗岩		凹部は下面1ヶ所。側面すってある。	
904						
905		礫	砂岩		板状。	
906		土器	深鉢・胴部	縄文前期	単節斜縄文を施す。器壁厚は6mm。石英・長石多し。淡褐色。	
907		"	"	"	No.906と同一個体。	
908		石器	凹石・花崗岩		凹部は、上面1ヶ所、下面1ヶ所。側面すってある。	
909						
910		石器	丸石・硬砂岩		ススけている。	
911		土器	深鉢・胴部	縄文前期	No.953と同一個体。	II-2-A
912		"	" 胴部	" 中期末	No.921と同一個体。	
913		小礫	破片・片麻岩			
914		石器	打製石斧		縁泥片岩。	
915	第11図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	No.601と同一個体。	II-3-A
916		"	" 胴部	" 中期末	No.921と同一個体。	
917		"	"	" "		
918		礫	片麻岩			
919						
920		鉄製品	鉄製内耳鍋	12C以降	口縁部と内耳片方が残存。	
921	第13図	土器	深鉢形土器	縄文中期末	ほぼ一個体分。斜縄文と隆帯文を施す。長石・石英を多く含む。淡黄褐色。	
922		"	"	" "	No.921と同一個体。	
923		小礫	破片・片麻岩			
924						
925		土器	深鉢・口縁部	縄文中期末	波状口縁部片。No.921と同一個体か。	
926		"	" 胴部	" 前期	無文。器壁厚は4mm。長石・石英粒多し。淡茶褐色。	II-1-D
927	第7図	"	"	" 早期末	表裏ともに擦痕文。器壁厚は8mm。繊維・石英・長石多し。淡褐色。	I-1-C
928		石器	石鏃・黒曜石			
929	第18図	陶器	碗	12C以降	1/2個体。口径16.6cm。底径10.4cm。付け高台。ナデ整形。灰白色。胎土ち密。右回り糸切り底。	
930		礫	剥片・硬砂岩		使用痕なし。ススけている。	
931		土師器	甗・胴部	11~12C	No.934と同一個体。	
932	第18図	陶器	碗	12C以降	1/2個体。口径17.4cm。底径9.4cm。付け高台。ナデ整形。灰白色。胎土ち密であるが、長石粒含む。右回り糸切り底。	
933	"	"	"	"		
934		土師器	甗・胴部	11~12C	外面、斜位のヘラ削り。内面、斜位のはけ目整形。長石・石英多く含む。茶褐色。外面スス附着。	
935		石器	丸石・硬砂岩			
936		陶器	碗・口縁部	12C以降	口唇部肥厚している。内面、灰釉附着。ナデ整形。胎土ち密で、灰白色。	
937						
938	第18図	土師器	甗・胴部	11~12C	No.934と同一個体。	
939		"	甗・底部	"	"	
940		"	" 胴部	"	"	
941		"	"	"	"	
942		"	"	"	"	
943		"	"	"	"	
944	第18図	陶器	碗・口縁部	12C以降	口径15.8cm。ナデ整形。胎土ち密で、灰白色を呈す。釉は透明で、内面白色化している。	
945	"	"	碗・底部	"	底径6.2cm。ナデ整形。胎土ち密で、白色を呈す。糸切り底。	
946		土師器	甗・胴部	11~12C	No.934と同一個体。	
947						
948		小礫	丸石破片・硬砂岩			
949	第9図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。No.953と同一個体。	II-2-A
950	"	"	"	"	"	"
951		"	"	"	無文。器壁厚は7mm。長石粒多し。淡褐色。	II-1-D
952		土師器	甗・胴部	11~12C	内外面、ナデ整形。石英多く含む。内面、全体にオコケ附着。淡褐色。	
953	第9図	土器	深鉢・口縁部	縄文前期	歯状施文具による2条並行の刺突文と斜縄文を施す。長石多し。器壁厚は8mm。淡黄灰色。	II-2-A
954		"	" 胴部	"	無文。器壁厚は5mm。石英多く含む。淡褐色。	II-1-D
955		"	"	"	無文。器壁厚は6mm。長石粒多し。淡褐色。	"
956		"	"	"	気文。器壁厚は4mm。長石粒多し。淡灰褐色。	"

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
957	第11図	土器	深鉢・底部	縄文前期	No464と同一個体。	II-3-B
958		"	深鉢・胴部	" "	無文。器壁厚は4mm。長石粒多し。淡褐色。	II-1-D
959	第9図	"	" "	" "	斜縄文を施す。長石・石英・金雲母多し。器壁厚は4mm。裏面指痕。淡茶褐色。	III-1-B
960	第11図	"	" "	" "	斜縄文を施す。長石多し。繊維含まず。淡褐色。	"
961		"	胴部	" "	単節斜縄文を施す。器壁厚は6mm。長石粒多し。淡褐色。No906と同一。	III-2-A
962		石器	すり石・片麻岩		台石か。	
963		"	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
964	第11図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	No960と同一個体。	III-1-B
965	第11図	"	深鉢・底部	" "	底径10cm。No464と同一個体。	II-3-B
966		礫	剥片・硬砂岩		使用痕なし。	
967		土器	深鉢・胴部	縄文前期	単節斜縄文を施す。No905と同一個体。	III-2-A
968	第15図	石器	石錘・硬砂岩		片方の扶部欠く。	
969		"	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
970	第11図	土器	深鉢・口縁部	縄文前期	No996と同一個体。	II-3-D
971	第7図	"	胴部	" "	単節斜縄文。繊維・長石多し。淡黄褐色。	II-1-A
972		石器	すり石・花崗岩			
973	第11図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	No1029と同一個体。	III-1-A
974	"	"	胴部	" "	No996と同一個体。	II-3-D
975	"	"	" "	" "	No1029と同一個体。	III-1-A
976	"	"	胴部	" "	無文。器壁厚は4mm。繊維若干。長石多し。淡褐色。	II-1-E
977		石器	剥片・黒曜石			
978						
979	第15図	石器	敲打器・硬砂岩		先端部を敲打し、側面はすってある。	
980		"	丸石・緑泥片岩			
981		"	すり石・礫岩			
982		礫	破片・片麻岩			
983		石器	剥片・黒曜石		使用痕あり。石錘未製品か。	
984		"	敲打器・硬砂岩			
985	第11図	土器	深鉢・口縁部	縄文前期	No996と同一個体。	II-3-D
986	第9図	"	口頸部	" "	刺突文。No881と同一個体。	II-2-B
987	"	"	口縁部	" "	斜縄文。 "	"
988	"	"	胴部	" "	刺突文。 "	"
989		小石	砂岩			
990	第11図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。No881と同一個体。	II-2-B
991		"	胴部	" "	無文。器壁厚は5mm。繊維若干。石英多し。淡褐色。	II-1-E
992	第9図	"	口縁部	" "	刺突文。No881と同一個体。	II-2-B
993	"	"	胴部	" "	斜縄文。 "	"
994	"	"	胴部	" 早期末	表裏とも擦痕文。器壁厚は6mm。石英・長石多し。淡黄褐色。	I-1-C
995		石器	凹石・花崗岩		焼石。凹部は下面2ヶ所、上面1ヶ所。側面すってある。	
996	第11図	土器	深鉢・口縁部	縄文前期	格子状斜縄文。口唇部に刻み目あり。長石・金雲母多し。裏面指痕。淡褐色。	II-3-D
997	"	"	胴部	" "	無文。器壁厚は5mm。石英多く含む。淡褐色。	II-1-D
998	第9図	"	" "	" "	斜縄文。No881と同一個体。	II-2-B
999	"	"	胴部	" "	無文。器壁厚は6mm。胎土極めて細かい。淡灰褐色。	II-1-D
1000	第14図	石器	スクレイパー・チャート			
1001	第11図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	No1029と同一個体。	III-1-A
1002	"	"	" "	" "	斜縄文。石英多し。淡褐色。	III-2-A
1003						
1004		石器	剥片・黒曜石		使用痕あり。	
1005		土器	深鉢・口縁部	縄文前期	刺突文。No953と同一個体。	II-2-A
1006		"	胴部	" "	擦痕あり。器壁厚は5mm。長石粒多し。淡褐色。	II-1-C
1007		"	" "	" "	No953と同一個体。	II-2-A
1008		"	" "	" "	斜縄文。長石多し。淡褐色。	III-2-A
1009		石器	剥片・黒曜石		使用痕あり。	
1010	第9図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。No953と同一個体。	II-2-A
1011	第11図	"	" "	" "	No959と同一個体。	III-1-B
1012	第9図	"	" "	" "	" No953と同一個体。	II-2-A
1013	"	"	" "	" "	" "	"

番号	挿図	種別	形態	時代及び時期	特徴	分類
1014	第15図	石器	すり石・硬砂岩		両端部敲打している。	
1015	第11図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。荒い石英多し。淡茶褐色。表面スス付着。	III-2-A
1016	第9図	"	" 胴部	" "	刺突文。No.953と同一個体。	II-2-A
1017	第11図	"	" 胴部	" "	原体の太い単節斜縄文。長石・石英多し。表面スス、裏面オコゲ付着。	II-3-C
1018						
1019		土器	深鉢・胴部	縄文前期	捺痕あり。器壁厚は6mm。石英粒多し。淡褐色。	II-1-C
1020		"	" "	" "	無文。器壁厚は5mm。細かい長石多し。淡黄褐色。	"
1021	第9図	"	" 口縁部	" "	山形口縁をなす。刺突文。No.953と同一個体。	II-2-A
1022	第11図	"	" 胴部	" "	No.1017と同一個体。	II-3-C
1023		"	" "	" "	刺突文。No.881と同一個体。	II-2-B
1024		石器	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
1025						
1026	第7図	土器	深鉢・胴部	縄文前期	捺痕あり。器壁厚は5mm。石英・長石粒多し。淡黄褐色。	II-1-C
1027		"	" "	" 早期		
1028	第7図	"	" 胴上部	" 早期末	器壁厚は5mm。胎土細かく長石多し。淡茶褐色。	I-2-A
1029	第11図	"	" 胴部	" 前期	斜縄文を地文としヘラ先でひし形状の沈線文を施す。器壁厚は4mm。長石多し。淡褐色。	III-1-C
1030		"	" "	" "	斜縄文。長石多し。淡褐色。	II-3-A
1031		石器	剥片・チャート		使用痕なし。	
1032		土器	深鉢・胴部	縄文前期	捺痕。器壁厚は6mm。繊維・長石・石英含む。淡褐色。	II-1-E
1033		石器	剥片・黒曜石		使用痕なし。	
1034	第14図	"	石鏃・黒曜石		有脚。	
1035		土器	深鉢・胴部	縄文前期	斜縄文。繊維・長石粒多し。淡灰褐色。	III-1-A
1036	第9図	"	" "	" "	斜縄文。No.953と同一個体。	II-2-A
1037		"	" "	" "	" "	"
1038	第9図	"	" "	" "	" "	"
1039		"	" "	" "	斜縄文。長石多し。淡褐色。	III-2-A
1040		礫	輝緑岩			
1041		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は5mm。長石粒多し。淡褐色。	II-1-D
1042		"	" "	" "	無文。器壁厚は5mm。白雲母多し。淡茶褐色。	"
1043		"	" "	" "	斜縄文。No.881と同一個体。	II-2-B
1044		"	" "	" "	刺突文。 "	"
1045	第14図	石器	搔器・頁岩			
1046		土器	深鉢・胴部	縄文前期	無文。器壁厚は6mm。石英粒多し。淡黄褐色。	II-1-D
1047		石器	剥片・頁岩		使用痕なし。	
1048		"	すり石・花崗岩		土器粘土の混材料。	



第6図 か-8~16G・か-8~す-8G内、暗褐色土層遺物分布図 (S = $\frac{1}{80}$)

第Ⅳ群 縄文時代中期末の土器を一括する。総体的に深鉢形を呈し、施文は隆帯文と斜縄文、沈線文によるU字状あるいは楕円状の区画を行い結節縄文の組合せ、ヘラ状施文具による連続刺突文で楕円状を施すもの（この口縁部には、釣手部が付くと思われる）が見られる。焼成は良好で、長石・石英を多く含む。

第Ⅴ群 縄文時代後期前半の土器であり、2点出土している。口縁部に沈線を施すものと斜縄文の上に沈線で楕円文を施すものである。焼成は良好で、長石を多く含む。

第Ⅵ群 平安時代半ばから末にかけての土師器、須恵器を一括する。甕形、杯が多い。

第Ⅶ群 灰釉、施釉陶器を一括する。胎土・釉・器形より平安時代末から鎌倉・南北朝にかけてのもので、主に鎌倉時代以降のものである。

以上のように遺物のうち土器をⅠ～Ⅶ群まで分類した。

(1) 土坑群 (第8・12区 図版2・3)

①第1号土坑

ピット群のすぐ南西に位置し、長軸1 m 90cm、短軸1 m 25cm、深さ60cmを測り、平面形が隅丸二等辺三角形状を呈し、断面形はたらい状を呈す。黒色土が堆積し、礫含む。

出土遺物は、第Ⅱ群～Ⅲ群が出土し、主にⅡ群1類が多い。石器は、石錘1点、凹石1点、石鏃1点、打製石斧1点、磨石2点と、黒曜石・硬砂岩の剥片が出土している。

②第2号土坑

第1号土坑の北西7 mに位置し、長軸2 m 60cm、短軸1 m 90cm、深さ72cmを測り、平面形が楕円形、断面形が舟底形を呈す。南壁に大きな自然石あり。黒褐色・暗褐色土が堆積。

出土遺物は、第Ⅱ群～Ⅲ群が出土し、主にⅡ群2類が多い。石器は、スクレイパー1点、敲打器1点、磨石3点と、黒曜石・チャート剥片が出土している。

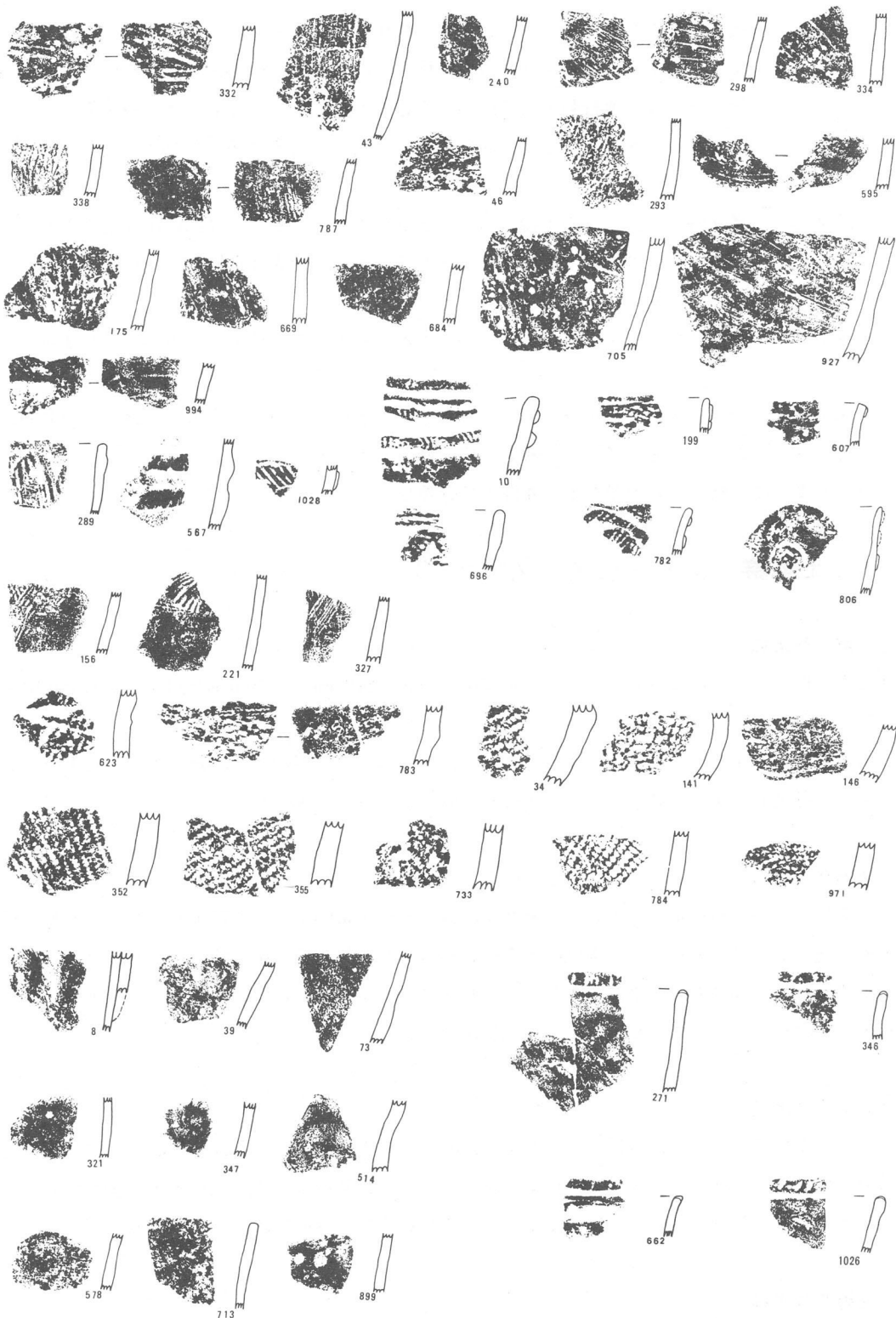
③第3号土坑

第2号土坑のすぐ北西に位置し、長軸1 m 85cm、短軸1 m 30cm、深さ72cmを測り、平面形が楕円形、断面形は舟底形を呈す。南西壁より埋土に大きな自然石がある。黒褐色土が堆積する。

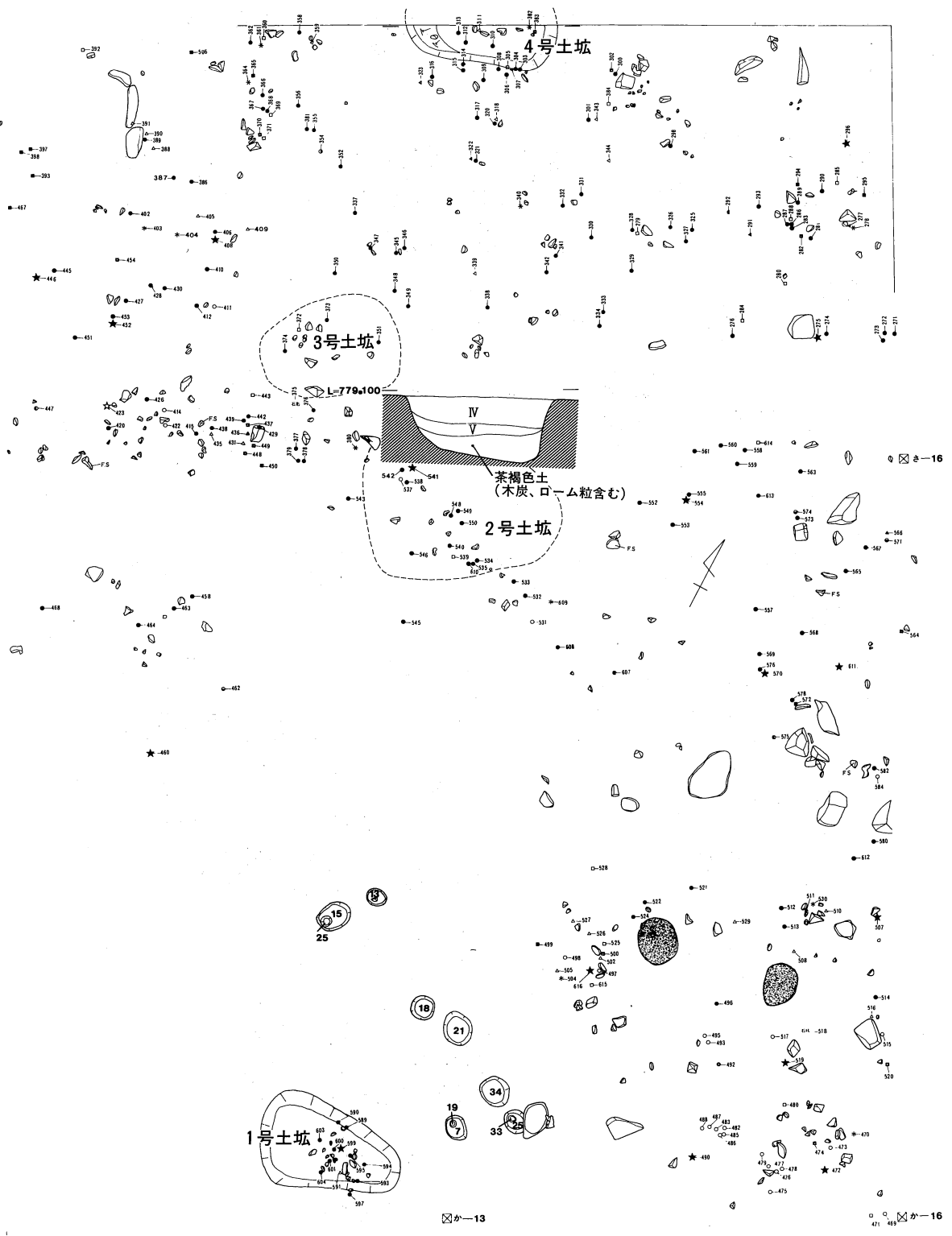
出土遺物は、第Ⅱ群3類の土器が出土している。石器は、硬砂岩剥片のみである。

④第4号土坑

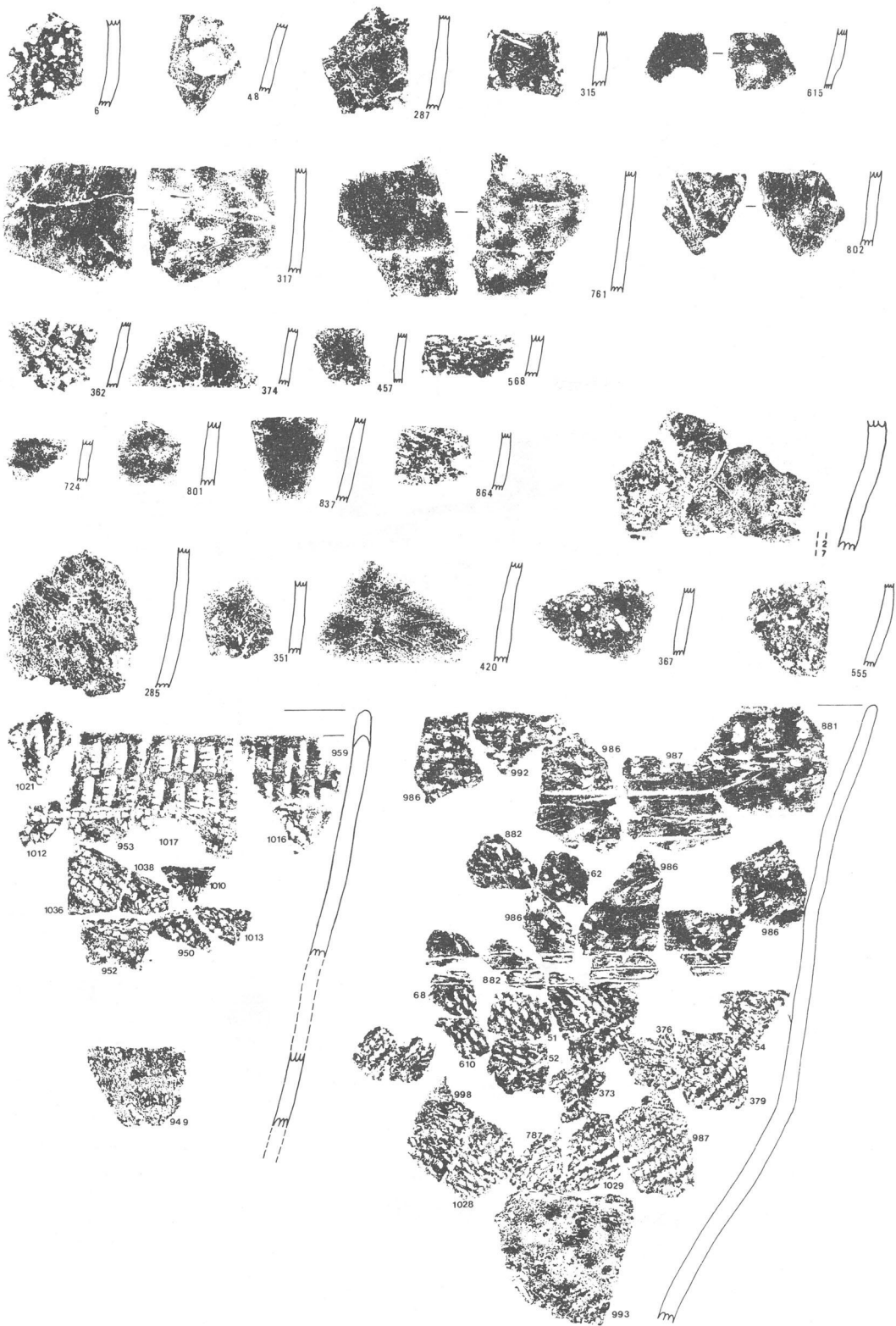
第3号土坑の北3.5 mに位置し、長軸2 m位、短軸1 m 50cm位を測り、深さは80位である。



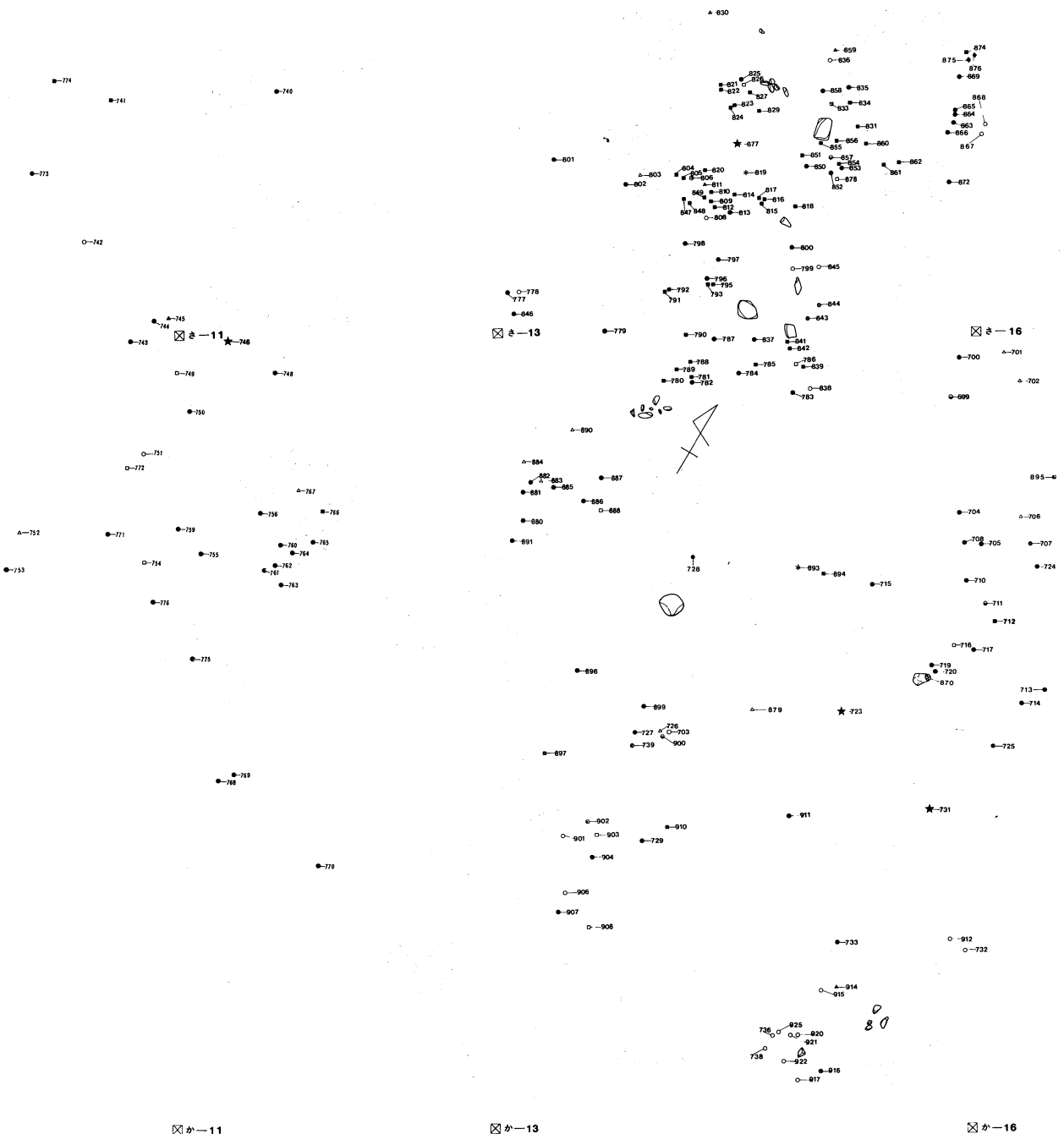
第7図 第I群1・2類, 第II群1類A~C種土器 (S = $\frac{1}{3}$)



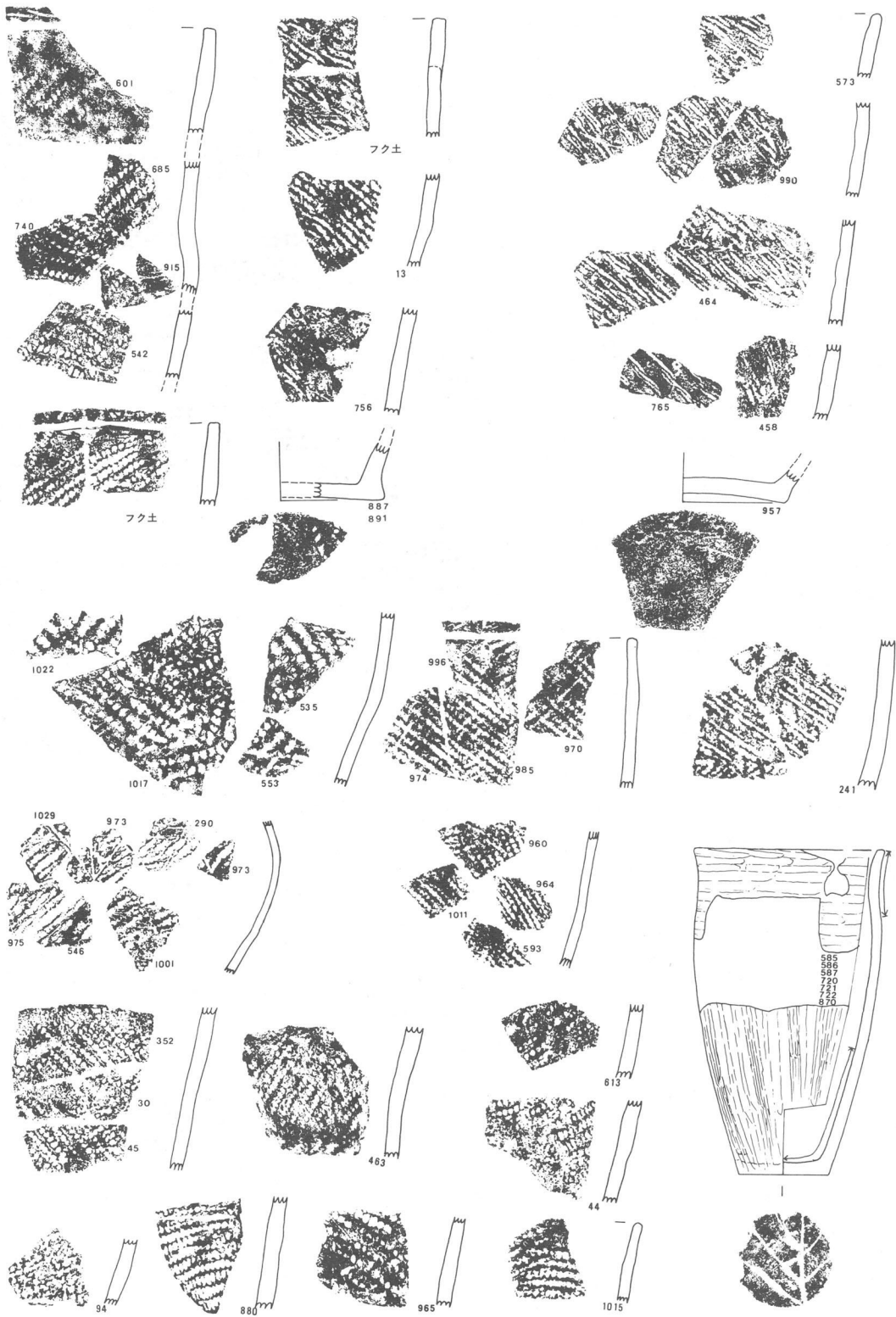
第8図 か-11~16G・か-11~す-11G内、黒褐色土層遺物分布図 (S = 1/80)



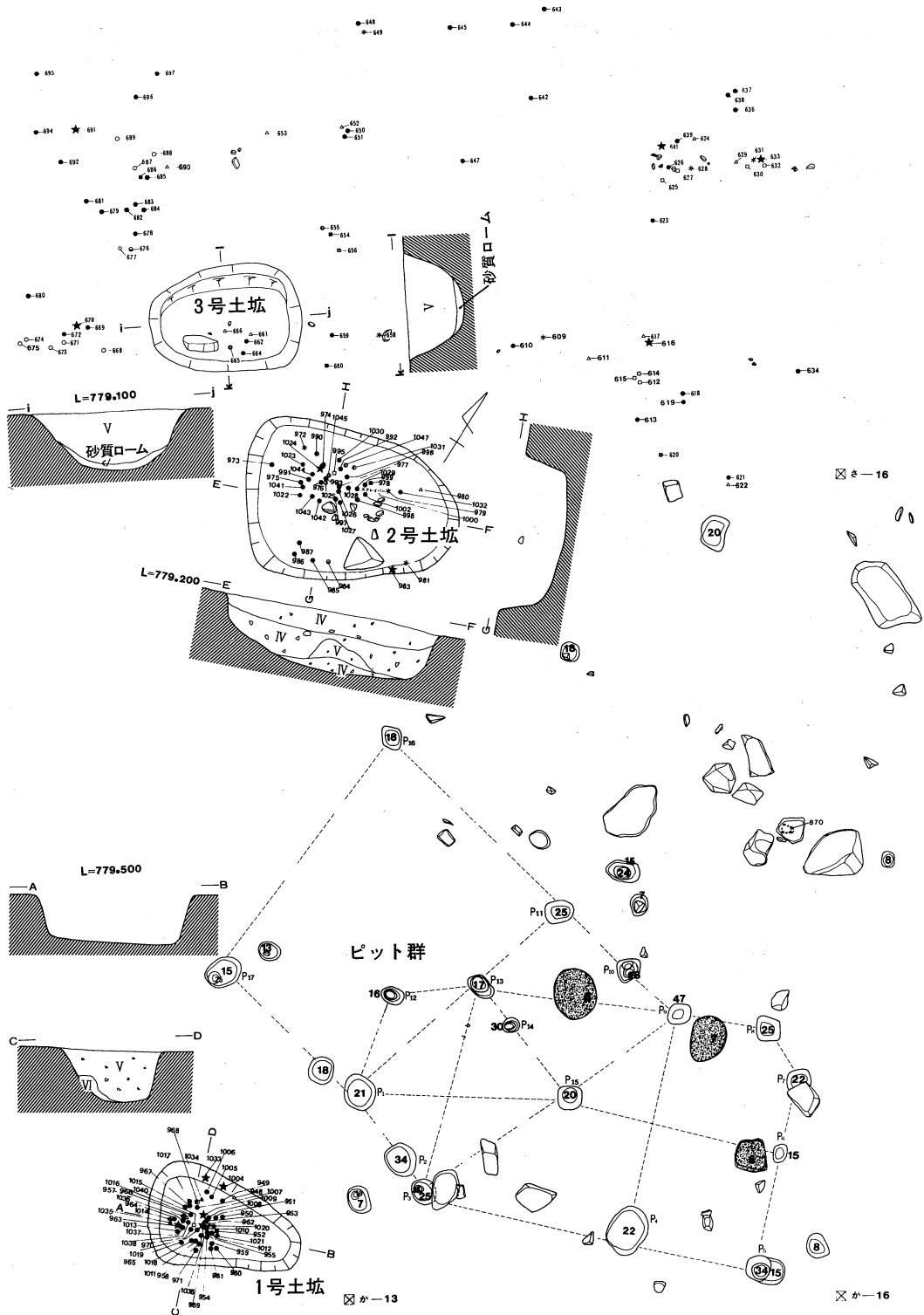
第9図 第II群1類C~E種, 2類A・B種土器 (S = $\frac{1}{3}$)



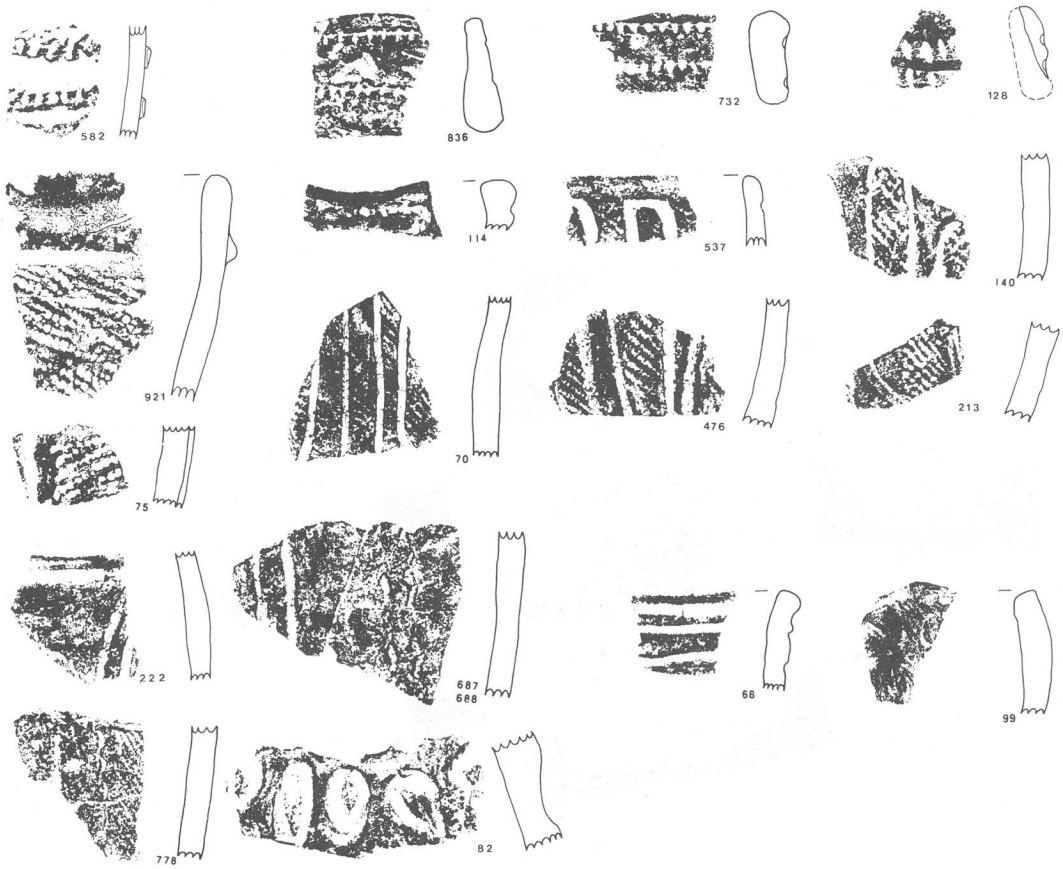
第10図 か-10~16G・か-10~す-10G内、黒褐色土層遺物分布図 (S = 1/80)



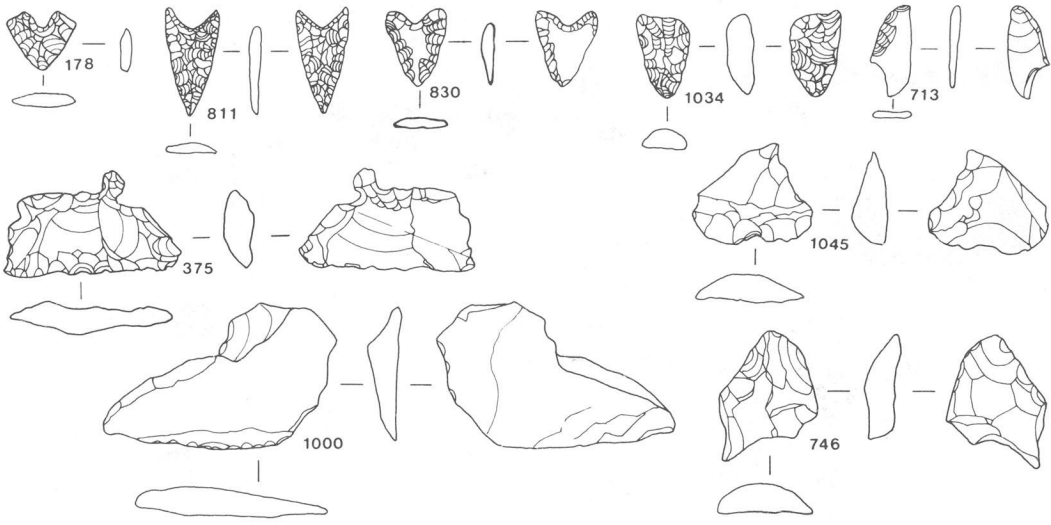
第11図 第II群3類A~E種, 第III群1・2類土器 (S = $\frac{1}{3}$)



第12図 土坑1～3号周辺遺物分布図及びピット群・焼土集中区実測図 (S = $\frac{1}{80}$)



第 13 图 第 IV · V 群土器 (S = $\frac{1}{3}$)



第 14 图 石器实测图 (S = $\frac{1}{2}$)

出土石器計測表 (単位 g・cm)

No.	種別・形状	残存	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考	No.	種別・形状	残存	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
18	すり石	完形	緑泥片岩	13.4	4.5	1.8	240		375	石 匙	完形	チャート	2.1	4.3	0.7	1.0	
22	敲打器	"	硬砂岩	11.6	6.0	2.4	280		384	凹 石	"	片麻岩	10.0	7.6	2.7	330	
33	すり石	"	花崗岩	6.8	5.7	4.3	275		390	剥片石器		硬砂岩	10.3	6.5	1.5	125	
40	凹 石	"	"	11.5	5.6	4.2	345		392	凹 石	1/2	片麻岩	5.8	5.6	1.6	100	
42	"	"	片麻岩	10.8	6.1	4.0	430		404	すり石	3/4	"	10.7	7.1	4.8	505	
49	すり石	"	花崗岩	12.5	6.5	4.5	610		422	凹 石	完形	"	10.7	6.8	2.3	243	
59	"	1/2	"	4.8	4.8	2.6	87		443	"	1/2	"	9.6	6.5	5.1	420	
61	凹 石	3/4	片麻岩	8.2	4.7	5.2	320		455	すり石	1/2	"	15.5	7.6	6.1	710	
62	"	3/4	"	9.7	7.0	4.4	435		470	敲打器	1/2	硬砂岩	11.7	4.4	4.4	390	
64	すり石	3/4	"	7.2	5.8	3.6	290		480	凹 石	完形	片麻岩	11.5	5.2	4.5	435	スス 付着
76	礫 器		硬砂岩	7.8	5.5	2.7	180		525	"	"	"	11.6	6.9	3.8	415	
96	凹 石	完形	花崗岩	11.1	4.6	3.8	275		528	"	"	"	8.7	6.3	4.4	380	
100	石 皿	1/2	安山岩	16.7	9.1	3.6	720		529	すり石	"	砂 岩	13.1	6.3	2.8	325	
127	石 匙	完形	硬砂岩	8.5	5.3	1.3	60		539	凹 石	"	花崗岩	10.8	8.0	4.3	540	
136	打製石斧、分銅形	3/4	ホーンフェルス	(12.1)	5.9	1.6	220	刃部 欠く	566	打製石斧、短冊形	1/2	緑泥片岩	4.9	4.6	0.7	3.0	頭、刃 部欠
158	すり石	1/2	花崗岩	8.2	12.6	7.8	1,625		574	敲打器、円形	完形	硬砂岩	9.3	11.2	4.0	532	
160	凹 石	完形	"	10.2	7.0	4.0	430		612	凹 石	"	片麻岩	9.7	5.6	5.4	405	
161	"	"	"	9.7	7.5	3.7	400	スス 付着	278	すり石	3/4	硬砂岩	11.4	10.0	3.6	440	
165	"	"	"	9.2	7.3	2.5	205		291	打製石斧、剥片		"	8.6	5.8	1.3	80	
169	すり石	"	硬砂岩	11.8	5.1	2.2	208		307	石 鏃	3/4	チャート	2.0	1.7	0.4	2	頭、片 脚欠
178	石 鏃	"	チャート	1.1	1.7	0.3	3	有脚	323	"	3/4	黒曜石	1.9	1.6	0.3	1	片脚欠
244	敲打器	1/2	硬砂岩	8.6	4.6	4.0	315		353	礫器、円形		硬砂岩	7.8	7.2	2.1	168	
261	凹 石	完形	片麻岩	10.5	7.3	3.8	345		360	凹 石	完形	片麻岩	9.4	7.4	4.0	390	
262	"	"	"	8.2	6.9	1.4	180		371	すり石	1/2	花崗岩	6.5	3.9	3.3	105	
263	すり石	"	"	8.2	6.0	5.8	540		511	石 鏃		黒曜石	1.5	1.3	0.3	1	片脚 欠く
264	凹 石	"	"	10.0	5.9	3.0	313		530	すり石	完形	花崗岩	6.5	6.3	6.3	380	
265	"	"	"	8.4	11.3	5.5	1,330	台石か	571	敲打器	1/2	硬砂岩	9.3	6.2	3.1	115	
267	"	"	"	12.3	7.1	2.5	325		609	すり石	完形	花崗岩	5.8	5.2	3.9	165	
268	"	"	"	14.5	10.5	5.7	1,640	台石か	615	凹 石	"	片麻岩	12.8	7.1	5.8	770	
269	"	"	"	13.0	9.0	5.5	1,065	凹部 浅い	625	"	"	"	10.2	6.5	3.5	375	
277	打製石斧、短冊形	1/2	硬砂岩	6.8	4.4	1.5	70		627	"	"	"	9.4	5.9	2.7	260	
279	凹 石	完形	片麻岩	6.9	7.5	3.0	215		630	"	"	"	8.9	6.3	2.7	250	
280	すり石	"	"	10.2	8.3	4.2	645		631	すり石	"	砂 岩	10.3	5.7	2.8	270	
288	凹 石	"	"	8.6	11.0	4.0	550		632	凹 石	3/4	片麻岩	7.1	6.2	5.0	255	
305	"	"	"	10.8	6.4	3.6	390		640	"	3/4	"	8.6	5.7	4.0	240	
322	打製石斧、未製品		硬砂岩	5.3	11.0	2.2	210		649	すり石	完形	安山岩	7.7	5.1	3.6	215	
336	と 石	完形	片麻岩	10.7	7.6	2.3	275		653	敲打器	1/2	礫 岩	5.7	7.3	4.5	120	
340	すり石	"	"	8.7	3.5	3.2	155		658	すり石	完形	花崗岩	10.8	8.7	5.7	770	
361	"	1/2	花崗岩	7.8	3.5	4.0	175		676	敲打器	"	硬砂岩	10.1	5.4	2.6	220	
364	"	3/4	"	6.3	7.2	3.3	200		690	"	"	礫 岩	11.0	8.9	3.4	555	
369	凹 石	1/2	片麻岩	8.8	7.1	1.6	135		699	"	"	花崗岩	5.9	9.4	3.8	340	
370	石 錘	1/2	硬砂岩	3.8	4.2	1.8	48		702	剥片石器		硬砂岩	7.9	5.8	1.6	110	
372	すり石	完形	片麻岩	8.4	6.4	2.9	252		711	敲打器、円形		"	7.5	5.4	2.6	135	

No.	種別・形状	残存	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考	No.	種別・形状	残存	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
716	凹石	完形	片麻岩	8.6	7.6	3.2	328		888	凹石	完形	片麻岩	8.8	6.7	2.9	268	
723	剥片		黒曜石	3.1	1.4	0.6	4		900	敲打器	〃	硬砂岩	11.6	6.1	3.6	380	
746	スクレイパー	1/2	チャート	2.8	2.5	0.8	9		903	凹石	〃	花崗岩	10.3	6.5	4.0	355	
749	凹石	3/8	片麻岩	7.0	5.6	2.7	140		908	〃	〃	〃	7.7	7.3	4.1	380	
754	〃	完形	〃	9.8	6.0	3.5	350		928	石鏃	〃	黒曜石	1.6	1.3	0.5	3	
772	〃	1/2	〃	6.1	6.9	2.8	185		968	石錘	3/8	硬砂岩	6.7	5.6	2.0	100	
786	〃	完形	花崗岩	10.3	7.4	3.7	415		972	すり石	3/8	花崗岩	11.1	6.6	4.3	525	
811	石鏃	〃	黒曜石	2.3	1.3	0.3	2	有脚	979	敲打器	3/8	硬砂岩	10.7	4.3	3.1	252	
819	すり石	〃	花崗岩	7.4	5.4	3.0	185		983	剥片		黒曜石	3.5	1.6	1.4	8	
826	凹石	1/2	〃	10.4	5.9	4.5	295	焼石	984	敲打器	完形	硬砂岩	8.7	5.5	3.6	270	
830	石鏃	完形	チャート	1.7	1.3	0.4	3		995	凹石	3/8	花崗岩	10.6	8.1	3.8	385	焼石
857	凹石	〃	硬砂岩	10.5	5.6	2.0	263		1000	スクレイパー	1/2	チャート	3.8	5.2	0.8	1.6	
859	打製石斧	〃	〃	14.8	6.2	1.8	292		1014	すり石	完形	硬砂岩	13.5	4.9	3.1	390	
875	石鏃	〃	石英	1.7	1.6	0.5	1		1034	石鏃	〃	チャート	2.2	1.3	0.7	3	有脚
877	搔器		黒曜石	1.9	3.8	0.4	5		1045	搔器		〃	2.6	3.1	0.9	6	
878	凹石	完形	片麻岩	12.5	8.0	3.8	435										

半分しか掘り下げることができなかつた為に、計測値は現状値及び推測である。平面形は楕円形を呈すると思われ、断面形は舟底形を呈する。

出土遺物は、第II群2類の土器が主に出土している。石器は壁より石鏃1点、磨石1点と硬砂岩の剥片が出土している。

上位より黒褐色土・黒色土・茶褐色土が堆積している。

(2) ピット群 (第12図 図版2)

第1号土坑と第2号土坑の間で、東の地区にピット群が検出された。明確なピットと考えられるものは17ヶ所あり、その外も含まれるかもしれない。

P₁・P₃・P₄～P₉・P₂・P₅の組み合わせと、P₁～P₃・P₃～P₅・P₉～P₁・P₆・P₇の組み合わせが想定され、深さは、15cm～47cmとばらつきがあり一定ではない。前者の組み合わせは、長楕円形を呈し、後者は長方形を呈す。ピット群の中に焼土集中箇所が3ヶ所あり、7cm前後焼土が堆積している。

出土遺物は、前者のピット群の中に、第IV群一縄文中期の遺物が多く、後者の中に、第II群の前期の遺物が多い。

P₄内より鉄製内耳付鍋が出土している。

(3) 焼土・木炭集中区 (第6図 図版2)

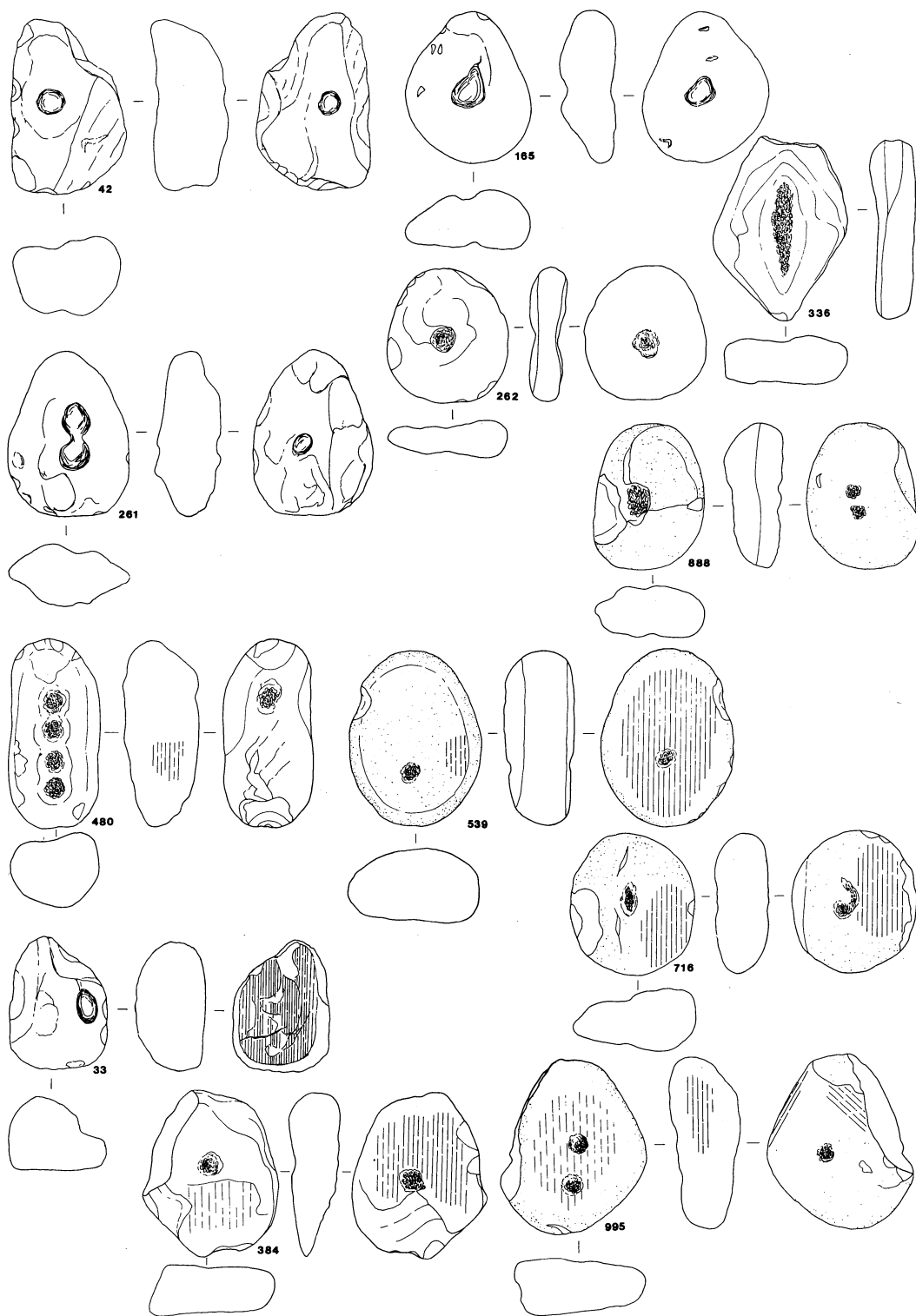
第3号土坑より西方5m位を中心として、ほぼ4m四方に、焼土・木炭が集中して、10cm位堆積していた。柱穴のような遺構は検出されなかつた。

出土遺物は、第VI群土器一平安時代末一が多く、甕・杯が主体であった。同じレベルより、石鏃・打製石斧なども出土している。

なお、東側に3個の石を組み合せた「炉址」状の遺構が検出されたが、暗褐色土層中に位置し焼土も少なく、周辺の遺構等の関係から「炉址」とは決定しがたい。



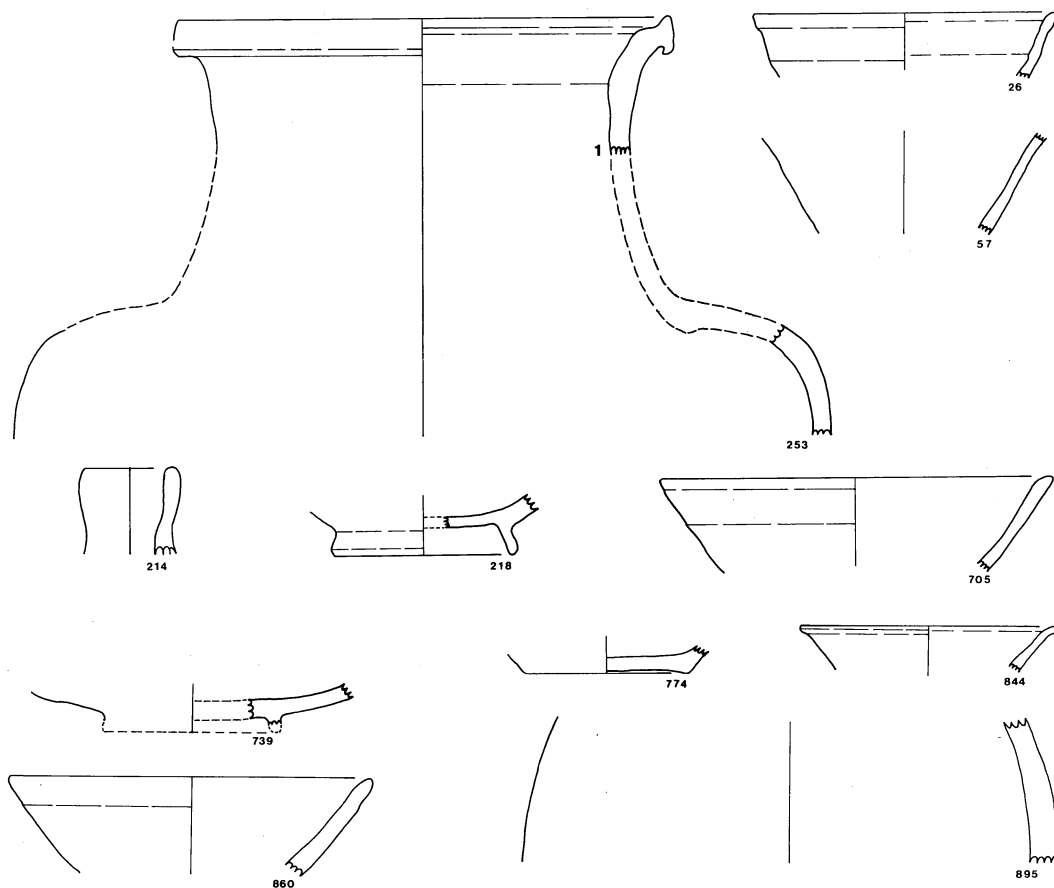
第15图 石器实测图 (S = 1/4)



第16图 石器实测图 (S = $\frac{1}{4}$)



第17图 石器实测图 (S=1/4)



第 19 図 第VI・VII群土器実測図 (S = $\frac{1}{3}$)

(4) 第1号住居跡 (第18図 図版2)

土城群の検出されたレベルより1.5m上位の斜面に構築されている。

住居跡の平面形は、不整形で南北軸が7m50cm、東西軸が3m40cmであり、東・北壁はなく傾斜して下がっている。西壁で、深さ15cmを測り、現状では全体的に浅い。暗褐色土が堆積。

柱穴は、12本検出されたが、主柱穴は、P₁・P₃~P₅・P₈~P₁₁が想定される。

出土遺物は、第VII群が主体をしめ、碗・杯・皿形が多い。東濃産の陶器と考えられる。

なお、西壁床面に、深さ7cmの焼土が「地床炉」的に遺存していた。

時代は、出土遺物より平安末~鎌倉以降であろう。

(5) 集石址 (第18図 図版2)

第1号住居跡の北西10m地点を中心に、径1m20cm~径1m80cmの礫群が検出された。木炭を含む茶褐色土上に設けられていたが、遺物の出土もなく、周辺に関連遺構もなかった。礫がまとまりをもち人為的ではあるが、時代等は不明確である。

第 IV 章 ま と め

当遺跡は、駒ヶ根市中沢永見山1491-1、1492-1に所在する。標高は780m前後である。陣馬形山に端を発する下間川の左岸段丘上に位置し、東に下間川と丸山地籍の山麓が展望でき、西にはやや急峻な山麓をひかえている。下間川との比高差は、10mを測る。

確認された遺構は、縄文時代早期末から前期にかけての土壇4基、平安時代末以降の住居跡1軒、時代不明の集石址1ヶ所、ピット群である。

●遺物—土器について

先ず縄文早期末から前期にかけての土器の内第I群2類A・B種は、近年、上伊那地方でも、数多く検出され、飯島町カゴ田遺跡では土壇に伴い、高遠町宮の原遺跡では住居跡に伴って出土し、当駒ヶ根市でも舟山遺跡から出土し、その分布が注目されるところである。

当遺跡出土の土器片は、4mm～7mmとやや厚手である。

愛知県南知多町塩屋遺跡の上層土器A類に比定され、塩屋式系の土器である。

次に、第II群1類に含まれる土器の内表裏に擦痕を施し、口唇部に刻み目を持ち、表裏ともに指痕が顕著に見られるものは、愛知県南知多町清水ノ上遺跡の清水ノ上I式に比定されるものである。

第II群2類A種の土器は、口縁部が山形口縁で、施文は櫛歯状施文具で引き止めや刺突を施し、胴部には斜縄文を付け、繊維を含まず、神ノ木式系土器に比定される。

このA種に対比するB種は、繊維を含まず、口縁部は平口縁で施文は半截竹管状施文具で横走る刺突やV字状の刺突を施し、胴下半には沈線文と斜縄文を施すもので、口縁部の施文は、清水ノ上II式に似るが、胴下半部が不明な為、明確に言えない。東海の影響を受け、上伊那に定着した土器と言えよう。

●遺物—石器について

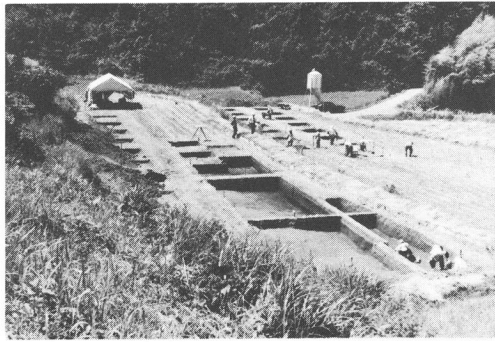
当遺跡で、注目されるのは、片麻岩製・花崗岩製（花崗閃緑岩含む）の凹石が多数出土したことである。凹部の数・位置はともかくとして、単純に凹部のあるもの、両面磨ってあるもの、側面を敲打するものと、使用痕の多様性が顕著である。凹石が、堅果類等の食料を打ち割るものと、土器の混材料を得る為に、磨ったり、敲いたりするものと2形態の機能が考えられ、前者は特に片麻岩製で、後者は、花崗岩・花崗閃緑岩製が当る。出土した土器の胎土と、凹石の材質と一致するものが見られることによる。同じことが、磨石においても、硬砂岩製のものと、花崗岩製・片麻岩製のものととの相違は顕著であることから言える。

以上、簡単なまとめとなってしまいましたが、今回出土した資料は、当地域における縄文時代早期末～前期の研究に貴重な資料を加えることができ、成果を得たと考えます。

なお、報告書の作成に関して、南知多町民俗資料館の大岩貞雄氏、辰野町郷土美術館学芸員赤羽義洋氏のご協力を得たことに深く感謝し、末文ながら、お礼を申し上げる次第です。

(小原晃一)

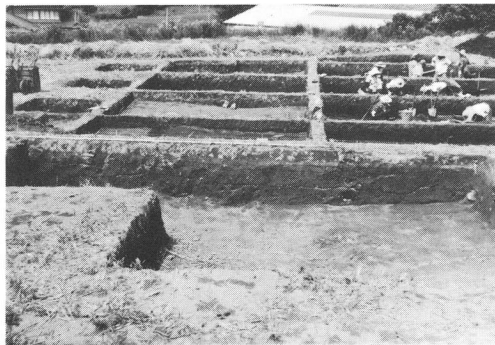
版 図



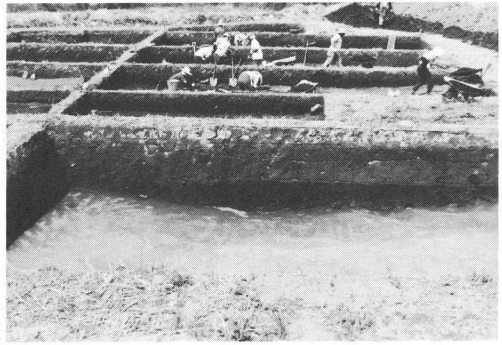
1



2



3

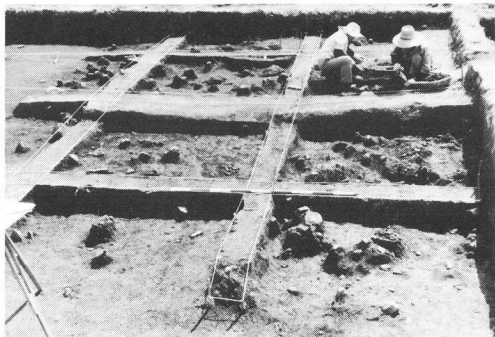


4

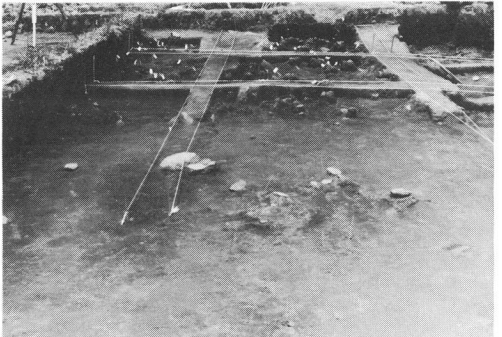


5

1. 試掘状況（南より）
2. " （北より）
3. 発掘状況（西より）
4. " （ " ）
5. グリッド調査状況（東より）
6. "
7. "

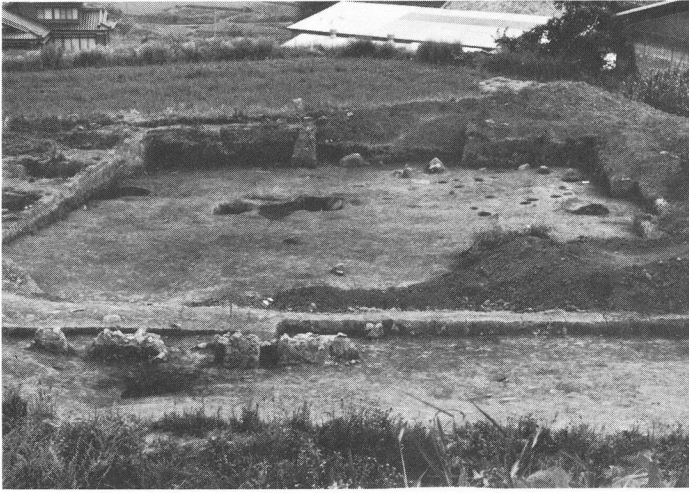


6



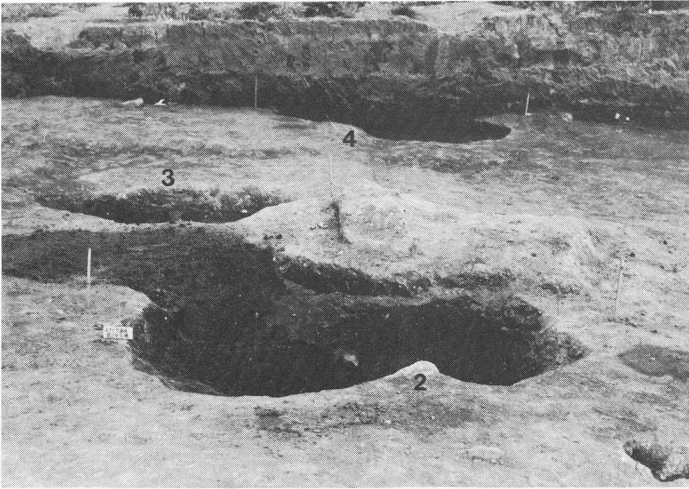
7

図版 1 よきとき遺跡調査状況



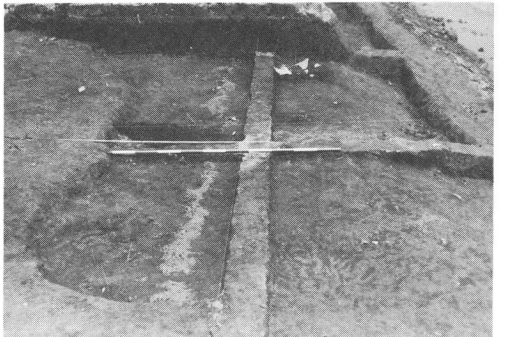
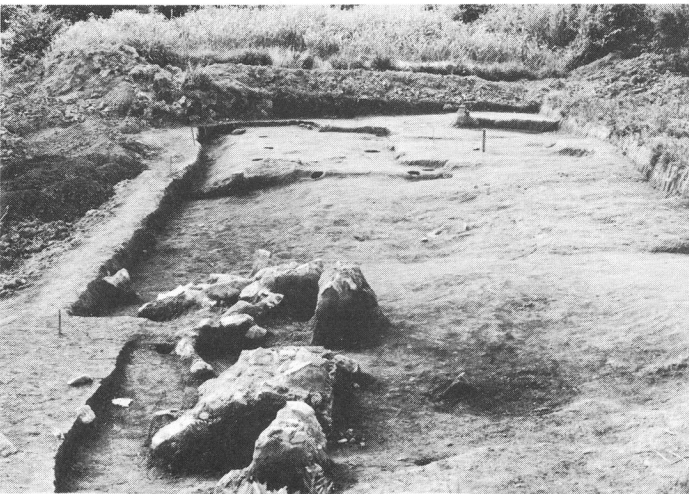
2. ピット群及び土壇1号

1. 遺構全景（西より）



4. 焼土・木炭集中区

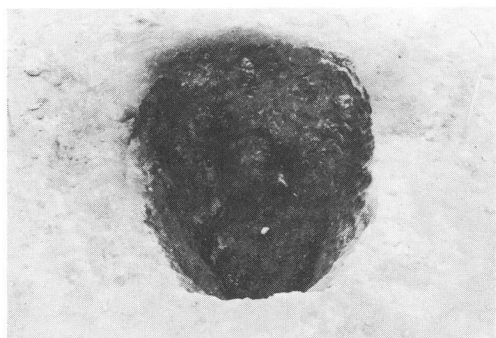
3. 土壇2号～4号



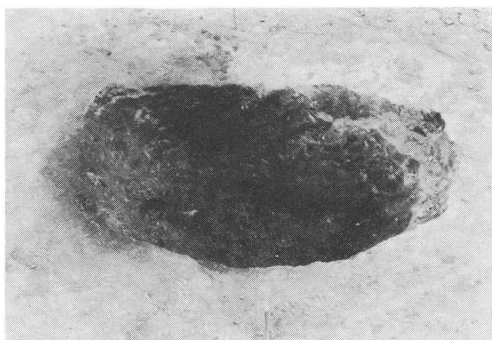
6. 第1号住居跡

5. 第1号住居跡及び集石址

図版2 遺構出土状況



1. 土坑 1 号



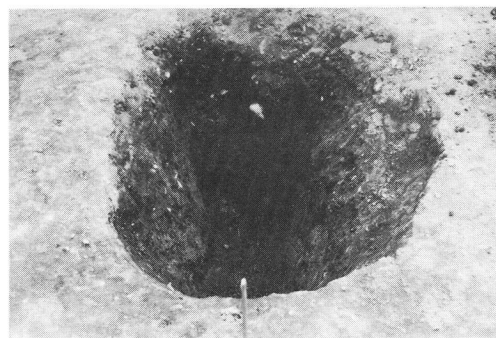
2. 土坑 1 号



3. 土坑 2 号



4. 土坑 2 号



5. 土坑 3 号



6. 土坑 3 号

7. 土坑 4 号

8. 土坑 2 ~ 4 号

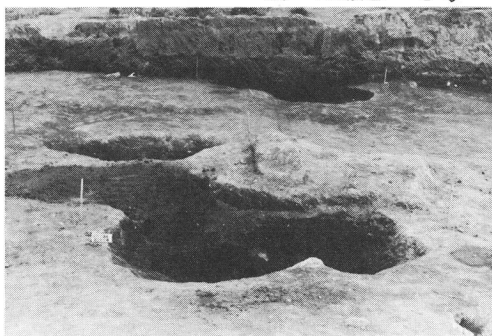
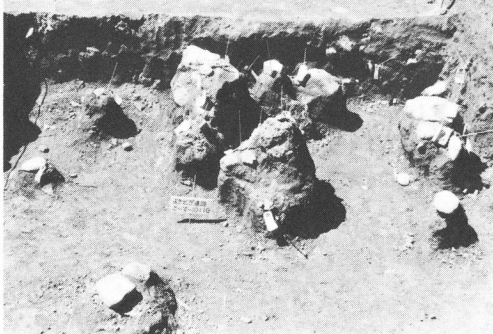
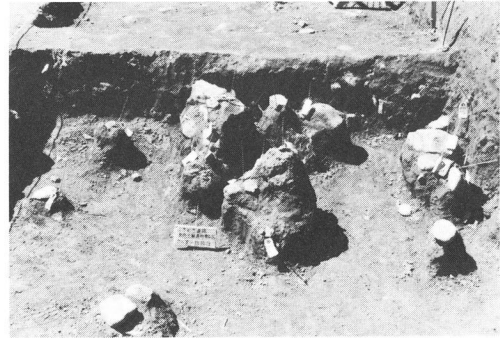


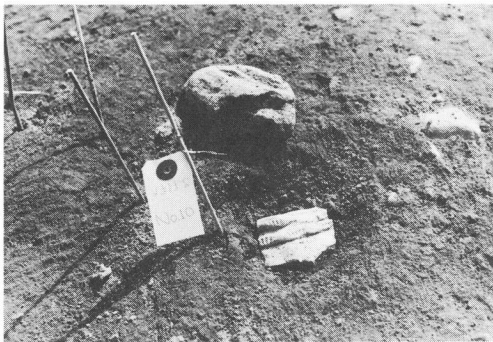
图 版 3 土坑 1 号 ~ 4 号



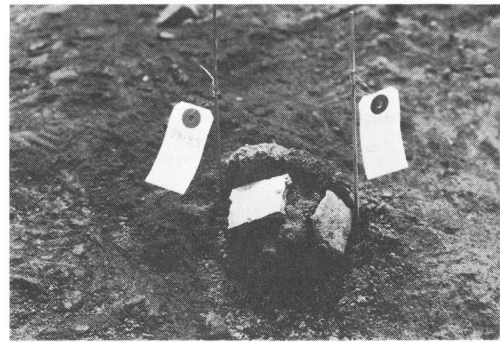
1. さ～す-10・11G内（黒褐色土層）



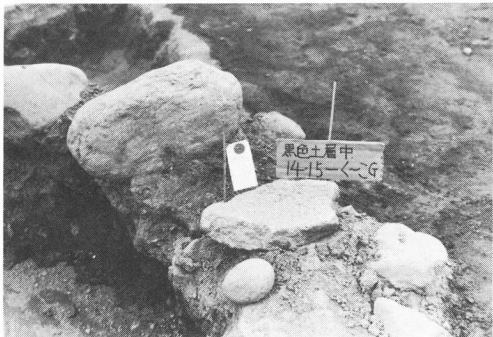
2. さ～す-13・14G内（黒褐色土層）



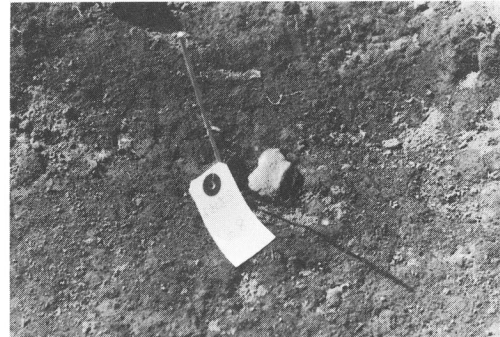
3. I群土器



4. I群土器・VII群土器



5. 石皿出土状態



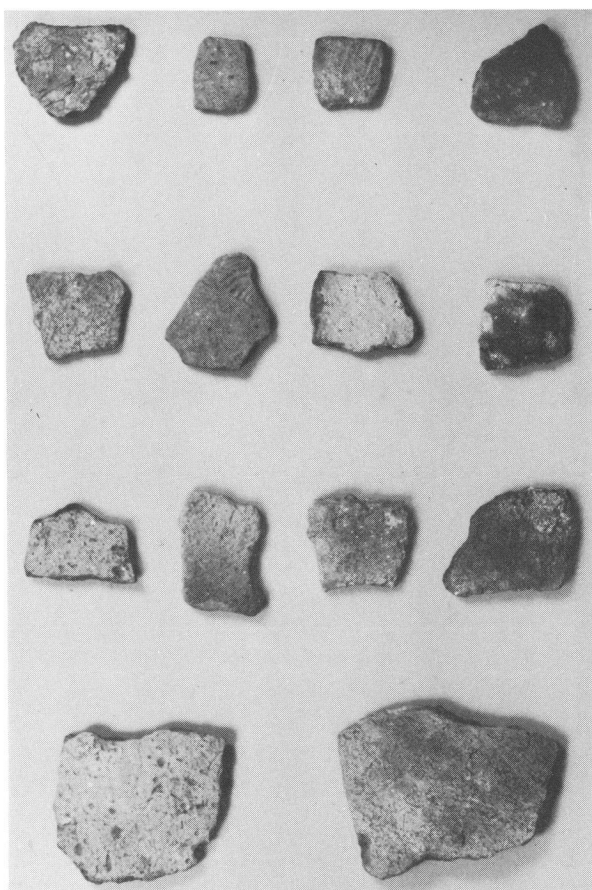
6. I群土器

7. 伏襲出土状態

8. 伏襲出土状態



図版 4 遺物出土状態



1. I群1類~2類土器(表)

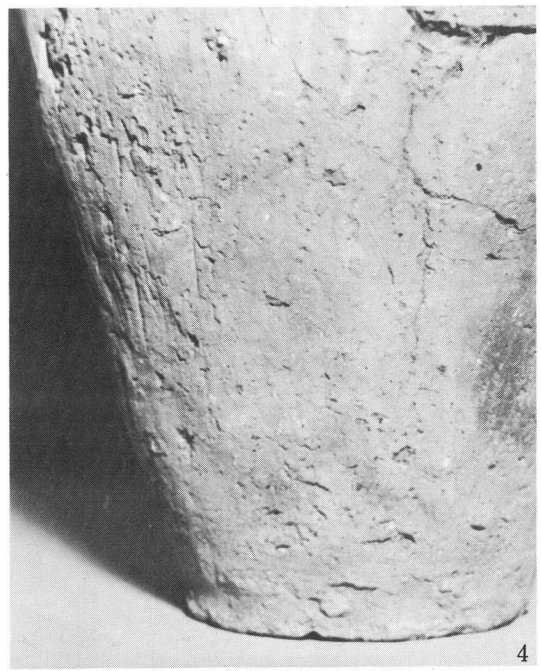
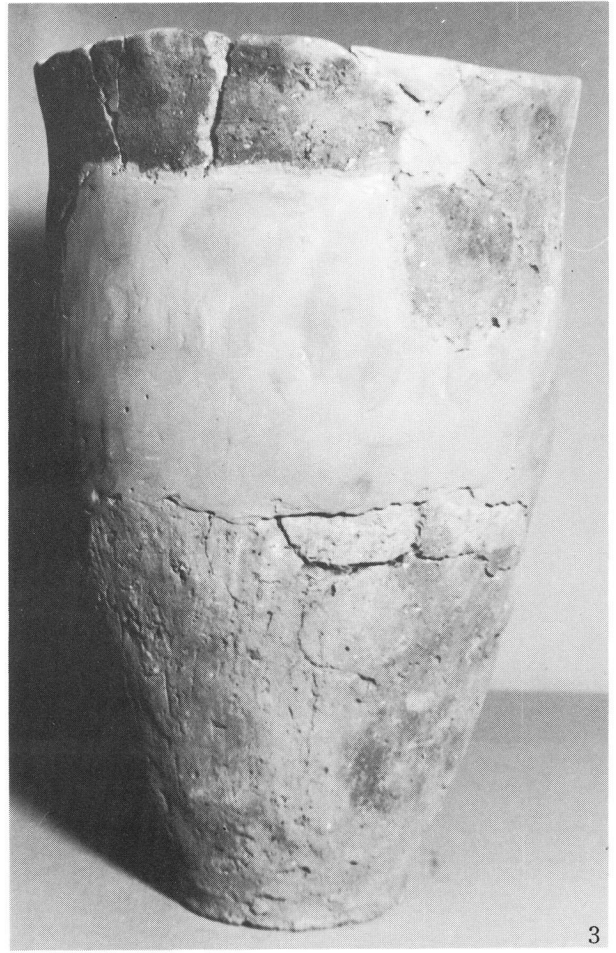
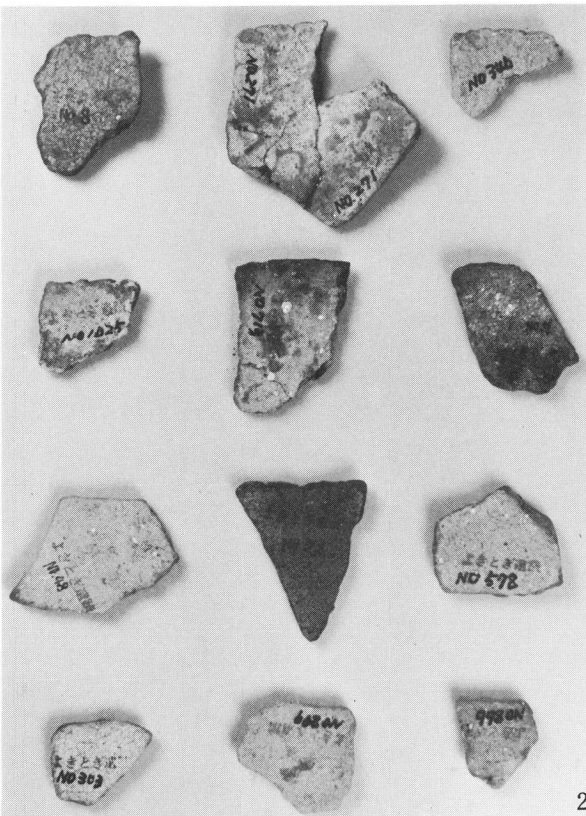


2. 同土器(裏)



3. I群2類土器

図版 5 出土土器



1. II群2類A種土器(表) 2. 同土器(裏) 3. III群2類B種土器 4. 同底部
 図版 6 出土土器

よ き と き 遺 跡

—— 緊急発掘調査報告 ——

昭和57年 3 月20日 印刷

昭和57年 3 月25日 発行

編集 駒ヶ根市上穂南2-15市立駒ヶ根博物館内

県営ほ場整備事業駒ヶ根下間地区

埋蔵文化財調査会

発行 伊那市青木町伊那合同庁舎内

南信土地改良事務所

駒ヶ根市赤須町20-1

駒ヶ根市教育委員会

印刷 伊那市みすず

小松総合印刷株式会社